

登録コード	L1521200	開講年度	2026				
担当教員	高瀬 弘樹			副担当			
授業科目	心理学概論 【EA】						
英文授業名	Introduction to Psychology						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	火曜・2時限
講義室			遠隔授業科目	該当	読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】				人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身につくようになる。		
	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。 【開拓力・企画発想能力】				専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身につくようになる。		
授業の概要	心理学における諸領域を概観し、実証科学としての現代心理学の特質と意義を考察する。動物としての人の生理的基礎、知覚・学習・記憶・思考・発達などの認知に関わる諸領域、さらに感情・情緒などの情動的機能や、これらが個人内で統合的にはたらくしくみとしての個人差の構造（パーソナリティ）などについて、近年の新しい研究成果も盛り込みつつ概説する。						
授業計画	第1回：心理学とは何か 第2回：現代心理学の成立 第3回：心と脳 第4回：心と身体 第5回：感覚・知覚 第6回：学習・記憶 第7回：思考・言語 第8回：動機づけ・情動 第9回：性格・知能 第10回：心の発達 第11回：発達の偏り 第12回：心理療法 第13回：メンタルヘルス 第14回：心と社会 第15回：認知科学、授業アンケート 期末試験						
成績評価の方法	小レポートおよび小テスト5割、期末試験5割の比率で、心理学における諸領域に関する理解度を総合的に評価する。						
成績評価の基準	授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」。						
事前事後学習の内容	授業のスライドを事前にeALPSにアップしておくので、それを用い予習と復習を行うこと。						
履修上の注意	本授業は、オンデマンド形式で開講する。事前に授業スライドや参考書を予習してくることが望ましい。さらに適宜、図表や画像・動画などを追加して補足説明を行う。 期末試験の実施方法（対面かオンライン）については、初回授業までにeALPSに掲載する。						
質問、相談への対応	火曜日の12:30から13:20をオフィスアワーとする。研究室の場所は人文学部棟5階。 相談のある学生は、事前にメールにてアボを取ること。アドレスは、takaseh (at) shinshu-u.ac.jp						
教科書	eALPSに、資料をアップする。						
参考書	鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃・河内十郎編（2020）. 心理学 第5版補訂版 東京大学出版会 2,640円（税込） 無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治（2018）. 心理学 新版 有斐閣 4,620円（税込）						

登録コード	L1532100		開講年度	2026			
担当教員	今井 章 他			副担当	高瀬 弘樹・岡本 卓也・松本 昇・白井 真理子		
授業科目	心理学基礎実験						
英文授業名	Psychology: Primary Experiments						
授業タイトル	心理学基礎実験						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	水曜・4時限 水曜・5時限
講義室	人文204演習室 人文205演習室 人文206演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加わらぬ対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力が身につくようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加わらぬ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】			人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身につくようになる。			
授業の概要	【2023年度以降加わらぬ対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。 【開拓力・企画発想能力】			専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身につくようになる。			
	心理学の基礎領域における代表的な実験を、毎週一つずつ、3 - 4人の小グループで行っていく。各実験ごとに毎回、個別にレポートを提出しなければならない。提出されたレポートに不備な点がある場合には再提出を求めることがある。心理学・社会心理学コースで卒業論文を提出する予定の学生は全員、履修する必要がある。						
授業計画	第1 - 2週 全体ガイダンス・実験の説明 第3週 ミュラー・リヤーの錯視 第4週 重さの判断 第5週 対連合学習 第6 - 7週 結果の発表と討論 第8週 実験の説明 第9週 両側性転移 第10週 認知的葛藤 第11週 心的回転 第12週 結果の発表と討論 第13—15週 まとめと授業アンケート 定期試験なし なお、状況に応じて、予告した内容を変更する場合がある。						
成績評価の方法	実験実習への出席によって提出が可能になるレポートの評点による。 なお、単位取得のためには、全ての実験実習テーマについてレポートを提出する必要がある。						
成績評価の基準	レポートについては、「問題」「目的」「方法」「結果」「考察」「引用文献」のそれぞれが明確に項目立てされており、各項目について以下のような内容が記述されていることが必要である。 1.問題・目的で、当該レポートで何を問題・目的とするのかが明確に記述されている 2.方法で、実験・調査の対象、材料、手続等の要点がもれなく記述されている 3.結果が、実験・調査の結果について事実即して忠実に記述されている 4.考察で、得られた結果が論理的に解釈され、結論に至るまでの過程が明確に記述されている 5.引用文献が、所定の表記法（手引き等参照）で記述されている 6.レポート全体が、自分の発見などを人に伝えるための適切な形式になっている 1～6までの6項目すべてを満たしていれば「卓越している」、5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目を満たしていれば「やや上にある」、3項目を満たしていれば「その水準にある」と評価する。						
事前事後学習の内容	事前に教科書や参考書等、当該実験テーマについて事前学習として予習(1時間)をしてくる。実験後に事後学習として、データの解析とそれに基づくレポートの作成(2時間)が必要である。						
履修上の注意	心理学・社会心理学コースの2年次学生は必ず履修すること。心理学概論 または ,あるいは社会心理学概論 または ,およびそれらに相当する授業科目等を履修していることを前提として授業をすすめる。 なお、実験室スペースの都合上、心理学・社会心理学コースの学生のみに履修制限する。						
質問、相談への対応	授業時に積極的に質問などをするを基本とする。その他、オフィスアワー(木曜日の12:30～13:30)にて対応するが、その場合は事前にメール(imaia.kr@shinshu-u.ac.jp)にて予約をする。						
教科書	用いない。						
参考書	○心理学実験指導研究会編 (1985). 実験とテスト＝心理学の基礎（実習編） 培風館（税込価格1,980円） ○心理学実験指導研究会編 (1985). 実験とテスト＝心理学の基礎（解説編） 培風館（税込価格3,300円）						

参考書	○ B.フィンドレイ著 細江・細越訳 (1996). 心理学実験・研究レポートの書き方 北大路書房 (税込価格1,404円)
-----	--

登録コード	L1532200	開講年度	2026				
担当教員	今井 章 他			副担当	高瀬 弘樹・岡本 卓也・松本 昇・白井 真理子		
授業科目	心理学基礎実験（心理的アセスメント）						
英文授業名	Psychology: Primary Experiments						
授業タイトル	心理学基礎実験（心理的アセスメント）						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	水曜・4時限 水曜・5時限
講義室	人文第2講義室 人文204演習室 人文205演習室 人文206演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前カリ対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力が身につくようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降カリ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身につくようになる。			
	【2023年度以降カリ対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】			専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身につくようになる。			
授業の概要	心理的アセスメントの重要性を理解した上で、様々な検査法を実施し、得られた結果の適切な解釈方法までを学んでゆく。各検査法では、一連の過程を整理したレポートを提出しなければならない。提出されたレポートに不備な点がある場合、修正のうえ再提出が求められる。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：心理職におけるアセスメントの重要性 第3回：様々な検査ツールと測定方法（質問紙法，投映法，作業検査法など） 第4回：尺度構成法（新たな質問紙尺度の作成）（1） 第5回：尺度構成法（新たな質問紙尺度の作成）（2） 第6回：尺度構成法（新たな質問紙尺度の作成）（3） 第7回：尺度構成法（新たな質問紙尺度の作成）（4） 第8回：YG性格検査（質問紙法の実施と解釈およびその限界） 第9回：内田クレペリン検査（作業法検査の実施と解釈） 第10回：PFスタディ（投映法検査の実施と解釈）（1） 第11回：PFスタディ（投映法検査の実施と解釈）（2） 第12回：バウムテストとFFPQ（5因子性格検査）の対応関係（1） 第13回：バウムテストとFFPQ（5因子性格検査）の対応関係（2） 第14回：アセスメント結果の総合的な解釈方法（テスト・バッテリー） 第15回：まとめと授業アンケート 定期試験：なし						
成績評価の方法	実験実習への出席によって提出が可能になるレポートの評点により、心理学実験法の理解度を評価する。なお、単位取得のためには、全ての実験実習テーマについてレポートを提出する必要がある。						
成績評価の基準	レポートについては、「問題」「目的」「方法」「結果」「考察」「引用文献」のそれぞれが明確に項目立てされており、各項目について以下のような内容が記述されていることが必要である。 1.問題・目的で、当該レポートで何を問題・目的とするのが明確に記述されている 2.方法で、実験・調査の対象、材料、手続き等の要点がもれなく記述されている 3.結果が、実験・調査の結果について事実即して忠実に記述されている 4.考察で、得られた結果が論理的に解釈され、結論に至るまでの過程が記述されている 5.引用文献が、所定の表記法（手引き参照）で記述されている 6.レポート全体が、自分の発見などを人に伝えるための適切な形式になっている 1～6までの6項目すべてを満たしていれば「卓越している」，5項目を満たしていれば「かなり上にある」，4項目を満たしていれば「やや上にある」，3項目を満たしていれば「その水準にある」と評価する。						
事前事後学習の内容	事前に参考書などを読み、当該テーマについて予習をしてくる。授業後に事後学習として、実習データの解析とそれに基づくレポートの作成が必要である。						
履修上の注意	心理学分野の2年次学生は必ず履修すること。心理学概論・，またはそれに相当する授業科目を履修していることを前提とする。 なお、実験室スペースの都合上、履修制限する。						
質問、相談への対応	木曜日の12:30～13:30のオフィスアワーにて対応する。						
教科書	特に指定しない						
参考書	上里一郎編 1993 心理アセスメントハンドブック 西村書店 津川律子 2009 精神科臨床における心理アセスメント入門 金剛出版						

登録コード	L1532400	開講年度	2026				
担当教員	高瀬 弘樹			副担当			
授業科目	心理学基幹演習						
英文授業名	Psychology: Basic Seminar						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	水曜・3時限
講義室	人文501 演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ						
	【2023年度以降加わら対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】			人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身につけられる。			
	【2023年度以降加わら対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。 【開拓力・企画発想能力】			専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身につけられる。			
授業の概要	興味のある研究論文を各自で選び、それをレジュメの形にまとめ、発表し、興味深い点や問題点について全員で討論を行う。主に授業内で指示した雑誌リストから論文を検索し、論文を読み、発表を行う。						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：心理学の研究方法 第3回：研究論文の発表と討論(1) 第4回：研究論文の発表と討論(2) 第5回：研究論文の発表と討論(3) 第6回：研究論文の発表と討論(4) 第7回：研究論文の発表と討論(5) 第8回：研究論文の発表と討論(6) 第9回：研究論文の発表と討論(7) 第10回：研究論文の発表と討論(8) 第11回：研究論文の発表と討論(9) 第12回：研究論文の発表と討論(10) 第13回：研究論文の発表と討論(11) 第14回：研究論文の発表と討論(12) 第15回：まとめ、授業アンケート 定期試験：なし						
成績評価の方法	発表の質（70%）と討論への参加度（30%）により評価する。						
成績評価の基準	発表については、以下6項目の達成度から評価する。 1. 適切な発表資料を作成している 2. 研究論文の目的を正確に理解している 3. 研究論文の方法を正確に理解している 4. 研究論文の考察を正確に理解している 5. 研究論文の論旨を正確に理解している 6. 研究論文の内容を批判的に読むことができている 6項目すべてを満たし、かつ討論に積極的に参加していれば、「卓越している」、5項目を満たし、かつ討論に積極的に参加していれば、「かなり上にある」、4項目であり、かつ討論にやや積極的に参加していれば「やや上にある」、3項目であり、討論に参加していれば「その水準にある」と評価する。						
事前事後学習の内容	発表者は事前に発表資料（動画やスライド等）を作成し、eALPSまたはMicrosoft Teamsにアップすること。受講生は事前に発表資料を用い予習を行うこと。また、授業後にeALPSまたはMicrosoft Teams上で発表に対する質疑応答を行う。						
履修上の注意	心理学・社会心理学コースの心理学研究室に所属する2年生は本演習を履修するようにすること。心理学研究室で卒業論文を書く予定の学生（3,4年生）の履修も歓迎する。なお、受講を希望する学生数によっては履修制限を行う場合がある。また、心理学実験で使用する機材について学ぶ機会を設ける。						
質問、相談への対応	火曜日の12:30から13:20をオフィスアワーとする。研究室の場所は人文学部棟5階。相談のある学生は、事前にメールにてアポを取ること。アドレスは、takaseh (at) shinshu-u.ac.jp						
教科書	使用しない。						
参考書	授業時に適宜紹介する。						

登録コード	L1532500	開講年度	2026				
担当教員	今井 章			副担当			
授業科目	神経・生理心理学						
英文授業名	Neuro- and Physiological Psychology						
授業タイトル	神経・生理心理学						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	月曜・4時限
講義室	人文第1講義室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前が対象】過去の英知の批判的継承のうえに 立って創造的な未来を切り拓く開拓力			過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く 開拓力が身につくようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降が対象】人文学部人文学科の学士（文学） の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】			人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力 と専門的学力が身につくようになる。			
	【2023年度以降が対象】専門的学力を基盤とし、持続可能 な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。 【開拓力・企画発想能力】			専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題 に取り組む力が身につくようになる。			
授業の概要	まず、人の身体の生理学的・生物学的基礎過程を概観する。その後、心の座として考えられている「脳」の仕組みについて解説する。これらを基礎知識として、これまで心理学、生理学、神経科学、および、その他の関連領域において、実験的研究や症例などによって蓄積されてきた具体的な知見を紹介しながら、心と身体の関係についての専門知識を深化させる。						
授業計画	第1週 講義ガイダンス 第2週 境界領域としての生理学的心理学・神経心理学 第3 - 4週 行動の生理・生物学的基礎 第5 - 6週 神経系と神経伝達の機構について 第7 - 8週 行動の生理的対件 ―脳波と行動― 第9 - 10週 行動の生理的対件 ―事象関連電位と行動― 第11 - 12週 高次脳機能障害の概要 ―人格・行動の変容― 第13 - 14週 高次脳機能障害の概要 ―うつ病と神経可塑的变化― 第15週 まとめと授業アンケート実施 定期試験なし なお、状況に応じて予告した内容を変更することがある。						
成績評価の方法	講義中に随時、行われる小テストの成績と期末レポートの成績を1：2の比率で総合的に評価する。						
成績評価の基準	授業での小テストと期末レポート課題において、9割の問題に適切に答えられる場合は『卓越している』、8割の問題に適切に答えられる場合は、『かなり上にある』、7割の問題に適切に答えられる場合は『やや上にある』、6割の問題に適切に答えられる場合は『その水準にある』と評価する。						
事前事後学習の内容	授業で紹介される参考書の中から、講義で述べられる予定のテーマについての事前学習(2時間)を行って授業に臨む。講義で解説されて学んだことと小テストで問われた問題を事後学習(2時間)とする。						
履修上の注意	心理学概論・、またはそれに相当する授業科目を履修していることを前提に講義を進める。教科書は特に指定しないが、講義第1週目に紹介する参考書の中から、最低1冊の専門書を講義の終了時まで読んで読むこと。						
質問、相談への対応	木曜日の12:30～13:30のオフィスアワーにて対応する。事前にメール(imaiakr@shinshu-u.ac.jp)にて予約をする。						
教科書	使用しない。授業時に適宜、資料などを配付する。						
参考書	J.L. アンドレアッシ著 今井章監訳 2012(2007). 心理生理学 北大路書房 7,700円(税込) 以上の他にも授業時に適宜、紹介する。						

登録コード	L1532700	開講年度	2026				
担当教員	高瀬 弘樹			副担当			
授業科目	心理学研究法【EA】						
英文授業名	Psychological Research Methods						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生	2～4	講義期間	前期(集中)	曜日・時限	集中・不定期
講義室			遠隔授業科目	該当	読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2026Lカリ、2025Lカリ、2024Lカリ						
	【2023年度以降加わら対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】				人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身につくようになる。		
	【2023年度以降加わら対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。 【開拓力・企画発想能力】				専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身につくようになる。		
授業の概要	心理学における研究法を紹介し、その使用法と意義について説明する。また、それぞれの心理学的研究法が、実際の研究においてどのように用いられているか紹介する。						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：心理学研究法の概要 第3回：リサーチデザイン 第4回：研究倫理 第5回：実験法 第6回：調査法 第7回：観察法 第8回：面接法 第9回：介入研究法 第10回：心身医学研究 第11回：独立変数 第12回：従属変数 第13回：剰余変数 第14回：さまざまな実験法 第15回：心理学に特有な問題、授業アンケート 定期試験 なお、状況に応じて、予告した内容を変更する場合がある。						
成績評価の方法	小レポートおよび小テスト5割、定期試験5割の比率で、心理学における研究法の理解度を評価する。						
成績評価の基準	授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」。						
事前事後学習の内容	発表スライドを事前にeALPSにアップしておくので、それをを用い予習すること。						
履修上の注意	本授業は、オンデマンド（非同期型）形式で開講する。5月初旬までに15回分の動画を視聴し、課題を終えることとする。その後、5月中に試験を行う（具体的な日時については、eALPSに掲載する）。心理学概論、心理学統計法を履修していることを前提に講義を進める。心理学的な研究方法を用いて卒業研究を行う学生が受講することが望ましい。						
質問、相談への対応	火曜日の12:30から13:20をオフィスアワーとする。研究室の場所は人文学部棟 5 階。相談のある学生は、事前にメールにてアポを取ること。アドレスは、takaseh (at) shinshu-u.ac.jp						
教科書	授業中に配布、もしくはeALPSにアップロードする。						
参考書	高野陽太郎・岡隆編（2025）. 心理学研究法—心を見つめる科学のまなざし 第3版 有斐閣 2,420円（税込） 下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫監修（2020）. 心理学研究法（公認心理師スタンダードテキストシリーズ4） ミネルヴァ書房 2,640円（税込）						

登録コード	L1532800		開講年度	2026			
担当教員	今井 章			副担当			
授業科目	公認心理師の職責						
英文授業名	Professionalism of Licensed Psychologists						
授業タイトル	公認心理師の職責						
単位数	1	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	月曜・4時限
講義室	人文第1講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ						
	【2023年度以降加わらぬ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】				人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身につくようになる。		
	【2023年度以降加わらぬ対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。 【開拓力・企画発想能力】				専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身につくようになる。		
授業の概要	公認心理師には、法的義務や必要とされる倫理観、実際の業務に当たっての心理に関する支援を要する者等の安全の確保、個人情報への適切な取扱い、保健医療、福祉、教育、司法、産業その他の分野における公認心理師の業務、さらには自ら課題を発見し解決する能力、来たるべき高齢化社会における生涯学習への準備、多職種間における連携及び地域連携など、非常に多くの業務をこなすことが求められる。これらのことについて、確実な基礎知識を身につけるとともに、公認心理師の職業としての意義を考察する。						
授業計画	第1回目 ガイダンスと発表予定の決定 第2回目 公認心理師の役割、法的義務、求められる倫理、心理に関する支援を要する者等の安全の確保、情報の適切な取扱い 第3回目 保健医療分野における公認心理師の業務 第4回目 福祉分野における公認心理師の業務 第5回目 教育分野における公認心理師の業務 第6回目 司法・犯罪分野における公認心理師の業務 第7回目 産業・労働分野における公認心理師の業務 第8回目 まとめと授業アンケート 定期試験なし						
成績評価の方法	授業には毎回の出席が必要である。授業での討論とレポーターとしての発表(50%)、および期末レポート(50%)の評点を総合して、公認心理師の職責についての理解度を評価する。						
成績評価の基準	授業での討論に毎回、的確に参加し、レポーターとしての発表内容、およびレポートの内容が極めて優れている場合は『卓越している』、討論に3/4程度、的確に参加し、レポーターとしての発表内容、およびレポートの内容がかなり優れている場合は『かなり上にある』、討論に2/4程度、的確に参加し、レポーターとしての発表内容、およびレポートの内容がやや優れている場合は『やや上にある』、討論に1/4程度、的確に参加し、レポーターとしての発表内容、およびレポートの内容がその水準にある場合は『その水準にある』と評価する。						
事前事後学習の内容	あらかじめ、授業内容に関係するテキストの該当部分を予習してくる事前学習(1時間)が必須である。授業テーマについて毎回、グループディスカッションを行い、そのディスカッションを通じて公認心理師の職責について各自が反省することを事後学習(1時間)とする。						
履修上の注意	心理学・社会心理学分野の学生を対象とする。心理学概論・、社会心理学概論・、またはそれに相当する授業科目を最低、1科目は履修していることを前提に授業を進める。授業は隔週で行う。 なお、初回の授業時に半期の7回分の予定をすべて決定するので、履修希望者は必ず初回の授業に出席すること。						
質問、相談への対応	授業時に積極的に質問などをするを基本とする。その他、オフィスアワー(木曜日の12:30～13:30)にて対応するが、その場合は事前にメール(imaiakr@shinshu-u.ac.jp)にて予約をする。						
教科書	子安増生・丹野義彦編 (2019). 公認心理師エッセンシャルズ第2版 有斐閣 価格1760円(税込)						
参考書	授業時に適宜、紹介する。						

登録コード	L1532900		開講年度	2026			
担当教員	今井 章			副担当			
授業科目	司法・犯罪心理学						
英文授業名	Forensic and Criminal Psychology						
授業タイトル	司法・犯罪心理学						
単位数	1	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	集中・不定期
講義室	人文第1講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ						
	【2023年度以降加わらぬ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】				人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身につくようになる。		
	【2023年度以降加わらぬ対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。 【開拓力・企画発想能力】				専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身につくようになる。		
授業の概要	教科書を用いて、受講生がそれぞれ担当を決めてレポーターとなり発表を行い、それについて受講生が討論をするという演習形式で授業を進めていく。まず、犯罪の原因論としての生物学的視点、心理学的視点、社会学的視点について学ぶ。次に、犯罪の種別毎に暴力犯罪、性犯罪、ドメスティック・バイオレンス、ストーキング、虐待、窃盗・強盗・放火などについて学ぶ。次に、犯罪捜査と心理学の関わりについて考察する。最後に、司法と裁判、防犯、矯正と更生保護について考察する。これらの考察をふまえて、犯罪と司法における心理学の意義と役割について理解を深める。						
授業計画	第1週 ガイダンスと半期の発表予定決定 第2週 応用としての司法・犯罪心理学 第3週 犯罪の生物学的、心理学的、社会学的原因論 第4週 暴力犯罪、性犯罪 第5週 ドメスティック・バイオレンス、ストーキング 第6週 虐待、窃盗・強盗・放火、犯罪捜査 第7週 司法・裁判、防犯、矯正と更生保護 第8週 まとめと授業アンケート実施 定期試験なし なお、状況に応じて予告した内容を変更することがある。						
成績評価の方法	レポーターとしての発表と授業時の討論への参加を5割、期末に課されるレポートの成績を5割として総合的に評価する。						
成績評価の基準	授業におけるレポーターとしての発表と討論への参加、および期末レポートが、卓越して的確に問題を捉えて整理できている場合は『卓越している』、優れて的確に問題を捉えて整理できている場合は『かなり上にある』、やや優れて的確に問題を捉えて整理できている場合は『やや上にある』、的確に問題を捉えて整理できている場合は『その水準にある』と評価する。						
事前事後学習の内容	指定された教科書を毎回、予習してることが事前学習（1時間）となる。授業での議論に基づき、各自がその日の内容をまとめていくことを事後学習(1時間)とする。						
履修上の注意	心理学概論 ・ , 社会心理学概論 ・ , またはそれに相当する授業科目を履修済であることを前提にした演習として進める。指定の教科書は第1回目から使用するので、それまでに各自で用意する。 なお、この科目は公認心理師対応科目であり、演習として授業を展開するため、受講生が多い場合には、心理学・社会心理学コースの学生のみを受講制限する場合がある。授業は隔週で行うが、初回の授業時に半期の予定を全て決定するので、履修を希望する学生は必ず出席すること。						
質問、相談への対応	木曜日の12:30～13:30のオフィスアワーにて対応する。事前にメール(imaiakr@shinshu-u.ac.jp)にて予約をする。						
教科書	越智啓太 (2020). 司法犯罪心理学 サイエンス社 2530円(税込)						
参考書	授業時に適宜、紹介していく。						

登録コード	L1541101	開講年度	2026				
担当教員	今井 章			副担当			
授業科目	心理学特殊実験 (心理学実験)						
英文授業名	Psychology: Advanced Experiments						
授業タイトル	心理学特殊実験 (心理学実験)						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	水曜・1時限 水曜・2時限
講義室	人文205 演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力が身につくようになる。			
	【2022年度以前加付対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力が身につくようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門の学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】			人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門の学が身につくようになる。			
授業の概要	【2023年度以降加付対象】専門の学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。 【開拓力・企画発想能力】						
	心理学における研究がいかにして行われるか、その全体的な流れを学びながら、自らの問題意識を整理し、リサーチ・クエスチョンとして表現し仮説にする。さらに、仮説を検証するためのデータ収集の方法を決定し、実験や調査のためのシナリオや質問紙を構成する。 このような一連の研究遂行をしていく中で、グループ・ディスカッションを行い、自らの問題のみに終始することなく、学んだことを全体の知としてフィードバックすることで、受講生相互に刺激を与え合う授業構成とする。 なお、受講生は授業時間以外にも適宜、教員の指導を受ける。						
授業計画	第1回：ガイダンス：心理学における研究とは 第2回：問題の発見(1)：自らの問題意識を整理し発表する 第3回：問題の発見(2)：グループ・ディスカッションによって問題を深める 第4回：先行研究の探索と研究テーマの選定(1)：先行研究の探索の仕方を学ぶ 第5回：先行研究の探索と研究テーマの選定(2)：先行研究を探索し、問題を相対化する 第6回：仮説の設定(1)：問題をリサーチ・クエスチョンとして表現する 第7回：仮説の設定(2)：グループ・ディスカッションによって、仮説を確定する 第8回：データ収集方法と具体的な実施手続きの決定(1)：データ収集の方法を学ぶ（実験法） 第9回：データ収集方法と具体的な実施手続きの決定(2)：データ収集の方法を学ぶ（調査法） 第10回：データ解析方法と具体的な実施手続きの決定(3)：データ解析の方法を学ぶ（統計法） 第11回：データ収集と解析の方法と具体的な実施手続きの決定(4)：グループ・ディスカッションによって、データ収集と解析の方法を確定する 第12回：実験・調査の準備(1)：仮説検討に適した実験シナリオ・質問紙を、グループ・ディスカッションによって構成する 第13回：実験・調査の準備(2)：予備実験・調査の実施とデータの統計解析をする 第14回：実験・調査の準備(3)：予備実験・調査結果を基に、実験シナリオ・質問紙を改善する 第15回：まとめと授業アンケート 定期試験：なし						
成績評価の方法	授業での討論への参加(25%)，レポーターとしての発表内容(25%)，および期末のレポート(50%)を総合して、心理学における実証科学的な手法を体得したかを評価する。						
成績評価の基準	授業での討論に毎回、的確に参加し、レポートの内容が極めて優れている場合は『卓越している』，討論に3/4程度，的確に参加し，レポートの内容がかなり優れている場合は『かなり上にある』，討論に2/4程度，的確に参加し，レポートの内容がやや優れている場合は『やや上にある』，討論に1/4程度，的確に参加し，レポートの内容がその水準にある場合は『その水準にある』と評価する。						
事前事後学習の内容	レポーターとしての発表のための入念な事前学習(3時間)が必要である。授業内で議論され、指摘された点は事後学習(1時間)の材料とする。						
履修上の注意	心理学基礎実験，および (心理的アセスメント)を履修済みの，心理学・社会心理学コース心理学系の学生に限る。心理学系で卒業論文を書く予定の者は必ず履修する必要がある。						
質問、相談への対応	木曜日の12:30～13:30のオフィスアワーにて対応する。事前にメール(imaiakr@shinshu-u.ac.jp)にて予約をする。						
教科書	使用しない。						
参考書	●J. L. アンドレアッシ著 今井章監訳 (2007/2012). 心理生理学 北大路書房 7,700円（税込） ●市原茂・阿久津洋巳・石口彰編 視覚実験研究ガイドブック 朝倉書店 7040円（税込） ●日本心理学会編著 (2022). 日本心理学会執筆・投稿の手びき(2022年改訂版) 社団法人日本心理学						

参考書

会 500円（税込）

その他，授業時に随時伝える。

登録コード	L1541102		開講年度	2026			
担当教員	高瀬 弘樹			副担当			
授業科目	心理学特殊実験（心理学実験）						
英文授業名	Psychology: Advanced Experiments						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	水曜・1時限 水曜・2時限
講義室	人文501 演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			これまでの心理学研究で得られた知見に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力を身につけられる。			
	【2022年度以前加付対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			心理学研究の過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力を身につけられる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身につけている。 【思索力・受容力・批判力】			人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力を身につけられる。			
授業の概要	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身につけている。 【開拓力・企画発想能力】			専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力を身につけられる。			
授業の概要	心理学における研究がいかにして行われるか、その全体的な流れを学びながら、自らの問題意識を整理し、リサーチ・クエスチョンとして表現し仮説にする。さらに、仮説を検証するためのデータ収集の方法を決定し、実験や調査のためのシナリオや質問紙を構成する。 このような一連の研究遂行をしていく中で、グループ・ディスカッションを行い、自らの問題のみに終始することなく、学んだことを全体の知としてフィードバックすることで、受講生相互に刺激を与え合う授業構成とする。 なお、受講生は授業時間以外にも適宜に教員の指導を受ける。						
授業計画	第1回：ガイダンス：心理学における研究とは 第2回：問題の発見(1)：自らの問題意識を整理し発表する 第3回：問題の発見(2)：グループ・ディスカッションによって問題を深める 第4回：先行研究の探索と研究テーマの選定(1)：先行研究の探索の仕方を学ぶ 第5回：先行研究の探索と研究テーマの選定(2)：先行研究を探索し、問題を相対化する 第6回：仮説の設定(1)：問題をリサーチ・クエスチョンとして表現する 第7回：仮説の設定(2)：リサーチ・クエスチョンに基づき仮説を立て、グループ・ディスカッションによって仮説を確定する 第8回：データ収集方法と具体的な実施手続きの決定(1)：データ収集の方法を学ぶ（実験法） 第9回：データ収集方法と具体的な実施手続きの決定(2)：データ収集の方法を学ぶ（調査法） 第10回：データ解析方法と具体的な実施手続きの決定(3)：データ解析の方法を学ぶ（統計法） 第11回：データ収集と解析の方法と具体的な実施手続きの決定(4)：グループ・ディスカッションによって、データ収集と解析の方法を確定する 第12回：実験・調査の準備(1)：仮説検討に適した実験シナリオ・質問紙を構成し、グループ・ディスカッションによって実験シナリオ・質問紙を確定する 第13回：実験・調査の準備(2)：予備実験・調査の実施とデータの統計解析をする 第14回：実験・調査の準備(3)：予備実験・調査結果を基に、実験シナリオ・質問紙を改善する 第15回：中間発表会・まとめ、授業アンケート 定期試験：なし						
成績評価の方法	授業への参加度と討論への参加（25%）、レポーターとしての発表内容（25%）、および期末のレポート・発表（50%）の比率で、心理学における実証科学的な手法を体得したかを評価する。						
成績評価の基準	レポート及び発表について、「問題・目的」「方法」「結果（予備実験結果もしくは仮説）」「引用文献」のそれぞれが明確に項目立てされており、各項目について以下のような内容が記述されていることが必要である。また、予備実験の結果が仮説通り、もしくはほぼ仮説通りであることが望まれる。 1. 研究内容にオリジナリティがある 2. 問題・目的で、当該レポートで何を問題・目的とするのかが明確に記述されている 3. 方法で、実験・調査の対象、材料、手続き等の要点がもれなく記述されている 4. 結果（予備実験結果もしくは仮説）が、実験・調査の結果について事実即して忠実に記述されている 5. 引用文献が、所定の表記法（手引き参照）で記述されている 6. 予備実験の結果が仮説通り、もしくはほぼ仮説通りである 1から6の全項目を満たしていれば「卓越している」、5項目までできていれば「かなり上にある」、4項目までできていれば「やや上にある」、3項目までできていれば「水準にある」と評価する。						
事前事後学習の内容	発表者は事前に発表資料（動画やスライド等）を作成し、eALPSまたはMicrosoft Teamsにアップすること。また、授業で指摘された点について、発表後に加筆修正し再提出すること。						

履修上の注意	受講は「心理学基礎実験 ・ 」及び「心理学基幹演習」を履修した者に限る。担当教員の研究室で卒業論文を書く予定の者は必ず履修する必要がある。
質問、相談への対応	火曜日の12:30から13:20をオフィスアワーとする。研究室の場所は人文学部棟 5 階。 相談のある学生は、事前にメールにてアポを取る。アドレスは、takaseh (at) shinshu-u.ac.jp
教科書	・ 日本心理学会編著 (2022). 執筆・投稿の手びき(2022年版) < https://psych.or.jp/wp-content/uploads/2019/02/The-JPA-Publication-Manual.pdf > ・ 各自、自らの研究テーマに沿った論文を収集し、関連する最新の文献や書籍を随時チェックすること。
参考書	授業時に適宜紹介する。

登録コード	L1541201	開講年度	2026				
担当教員	今井 章			副担当			
授業科目	心理学特殊実験						
英文授業名	Psychology: Advanced Experiments						
授業タイトル	心理学特殊実験						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	水曜・1時限 水曜・2時限
講義室	人文205 演習室	遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力が身につくようになる。			
	【2022年度以前加付対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力が身につくようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門の学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門の学が身につくようになる。			
	【2023年度以降加付対象】専門の学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】			専門の学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身につくようになる。			
授業の概要	各受講生が自ら決めた研究テーマを実証的に検討するため、そのテーマに関連する文献の講読・発表を行ない、それらをもとに各自の実験・調査の計画を立て、仮説検証的に実験・調査を行ないデータを取得し、それを論文としてまとめ、最終的にその論文について発表を行い討論する。 なお、受講生は授業時間以外にも適宜、教員の指導を受ける。						
授業計画	第1週 - 第11週 心理学特殊実験（心理学実験）で立案した実験計画書に基づき、どのように実験・調査しているかを報告しつつ、平行して実験・調査を進める。12月初旬までに、論文としてまとめて提出する。 第12週 - 第14週 提出された論文に沿って、実験・調査の結果を発表し、議論する。問題点を指摘された場合は、データ追加のための再実験と再分析を行い、論文を書き直して再提出する。 第15週 まとめと授業アンケート 定期試験なし						
成績評価の方法	授業での発表内容(40%)、および期末に提出する論文(60%)を総合して、心理学における実証科学的な手法を体得したかを評価する。						
成績評価の基準	授業での討論に毎回、的確に参加し、提出された特殊実験論文の内容が極めて優れている場合は『卓越している』、討論に3/4程度、的確に参加し、論文の内容がかなり優れている場合は『かなり上にある』、討論に2/4程度、的確に参加し、論文の内容がやや優れている場合は『やや上にある』、討論に1/4程度、的確に参加し、論文の内容がその水準にある場合は『その水準にある』と評価する。						
事前事後学習の内容	レポーターとしての発表と、各自の論文執筆のための入念な事前学習(3時間)が必要である。授業内で議論され、指摘された点は事後学習(1時間)の材料とし、それらを踏まえた論文を作成する。						
履修上の注意	受講は心理学基礎実験（心理的アセスメント）、および心理学特殊実験（心理学実験）を履修済みの心理学・社会心理学コース心理学系の学生に限る。心理学系で卒業論文を書く予定の者は必ず履修する必要がある。						
質問、相談への対応	木曜日の12:30～13:30のオフィスアワーにて対応する。事前にメール(imaiakr@shinshu-u.ac.jp)にて予約をする。						
教科書	使用しない。						
参考書	●J. L. アンドレアッシ著 今井章監訳 (2007/2012). 心理生理学 北大路書房 7,700円(税込) ●市原茂・阿久津洋巳・石口彰編 視覚実験研究ガイドブック 朝倉書店 7040円(税込) ●日本心理学会編著 (2015). 日本心理学会執筆・投稿の手びき(2015年改訂版) 社団法人日本心理学会 500円(税込) その他、授業時に随時伝える。						

登録コード	L1541202		開講年度	2026			
担当教員	高瀬 弘樹			副担当			
授業科目	心理学特殊実験						
英文授業名	Psychology: Advanced Experiments						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	水曜・1時限 水曜・2時限
講義室	人文501 演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			これまでの心理学研究で得られた知見に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力を身につけられる。			
	【2022年度以前加付対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			心理学研究の過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力を身につけられる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身につけている。 【思索力・受容力・批判力】			人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力を身につけられる。			
授業の概要	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身につけている。 【開拓力・企画発想能力】			専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力を身につけられる。			
	授業の概要						
授業計画	各受講生が研究テーマを決定するため、それに関連する文献の講読・発表を行ない、それらをもとに各自の実験・調査の計画を立て、仮説検証的に実験・調査を行ないデータを取得し、それを論文としてまとめ、最終的にその論文について発表を行い討論する。 なお、受講生は授業時間以外にも適宜に教員の指導を受ける。						
	授業計画						
成績評価の方法	1. ガイダンス 2. 心理学特殊実験 3. 心理学特殊実験 4. 心理学特殊実験 5. 心理学特殊実験 6. 心理学特殊実験 7. 心理学特殊実験 8. 心理学特殊実験 9. 心理学特殊実験 10. 研究論文の提出 11. 研究論文の発表・議論, および追加の実験・分析等の実施 (1) 12. 研究論文の発表・議論, および追加の実験・分析等の実施 (2) 13. 研究論文の発表・議論, および追加の実験・分析等の実施 (3) 14. 研究論文の再提出 15. 研究発表会・まとめ, 授業アンケート 定期試験: なし						
	成績評価の方法						
成績評価の基準	授業への積極的参加と発表 (50%), 論文の質と発表 (50%) の比率で, 心理学における実証科学的手法を体得したかを評価する。						
	成績評価の基準						
事前事後学習の内容	論文及び発表について, 「問題・目的」「方法」「結果」「考察」「引用文献」のそれぞれが明確に項目立てされており, 各項目について以下のような内容が記述されていることが必要である。また, 実験の結果が仮説通り, もしくはほぼ仮説通りであることが望まれる。 1. 研究内容にオリジナリティがある 2. 問題・目的で, 当該論文で何を問題・目的とするのが明確に記述されている 3. 方法で, 実験・調査の対象, 材料, 手続き等の要点がもれなく記述されている 4. 結果が, 実験・調査の結果について事実即して忠実に記述されている 5. 考察で, 得られた結果が論理的に解釈され, 結論に至るまでの過程が記述されている 6. 引用文献が, 所定の表記法 (手引き参照) で記述されている 7. 実験の結果が仮説通り, もしくはほぼ仮説通りである 1から7までの全項目を満たしていれば「卓越している」, 6項目ができていれば「かなり上にある」, 5項目ができていれば「やや上にある」, 4項目ができていれば「その水準にある」と評価する。						
	事前事後学習の内容						
履修上の注意	受講は「心理学基礎実験 ・ 」及び「心理学特殊実験 」を履修した者に限る。担当教員の研究室で卒業論文を書く予定の者は必ず履修する必要がある。						
質問、相談への対応	火曜日の12:30から13:20をオフィスアワーとする。研究室の場所は人文学部棟5階。 相談のある学生は, 事前にメールにてアポを取ること。アドレスは, takaseh (at) shinshu-u.ac.jp						

教科書	・日本心理学会編著 (2022). 執筆・投稿の手びき(2022年版) < https://psych.or.jp/wp-content/uploads/2019/02/The-JPA-Publication-Manual.pdf > ・各自, 自らの研究テーマに沿った論文を収集し, 関連する最新の文献や書籍を随時チェックすること。
参考書	授業時に適宜紹介する。

登録コード	L1541400	開講年度	2026				
担当教員	高瀬 弘樹			副担当			
授業科目	心理学発展演習						
英文授業名	Psychology: Advanced Seminar						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生	2～4	講義期間	後期	曜日・時限	水曜・3時限
講義室	人文501演習室	遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門の学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】			人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門の学力を身につけられる。			
	【2023年度以降加付対象】専門の学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。 【開拓力・企画発想能力】			専門の学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力を身につけられる。			
授業の概要	興味のある研究論文を各自で選び、それをレジュメの形にまとめ、発表し、興味深い点や問題点について全員で討論を行う。主に授業内で指示した雑誌リストから論文（原則として英語論文）を検索し、論文を読み、発表を行う。						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：研究構想の発表 第3回：研究論文の発表と討論(1) 第4回：研究論文の発表と討論(2) 第5回：研究論文の発表と討論(3) 第6回：研究論文の発表と討論(4) 第7回：研究論文の発表と討論(5) 第8回：研究論文の発表と討論(6) 第9回：研究論文の発表と討論(7) 第10回：研究論文の発表と討論(8) 第11回：研究論文の発表と討論(9) 第12回：研究論文の発表と討論(10) 第13回：研究論文の発表と討論(11) 第14回：研究論文の発表と討論(12) 第15回：まとめ、授業アンケート 定期試験：なし						
成績評価の方法	発表の質（70%）と討論への参加度（30%）により、心理学研究についての理解度を評価する。						
成績評価の基準	発表については、以下6項目の達成度から評価する。 - 適切な発表資料を作成している - 研究論文の目的を正確に理解している - 研究論文の方法を正確に理解している - 研究論文の考察を正確に理解している - 研究論文の論旨を正確に理解している - 研究論文の内容を批判的に読むことができる 6項目すべてを満たし、かつ討論に積極的に参加していれば、「卓越している」、5項目を満たし、かつ討論に積極的に参加していれば、「かなり上にある」、4項目であり、かつ討論にやや積極的に参加していれば「やや上にある」、3項目であり、討論に参加していれば「その水準にある」と評価する。						
事前事後学習の内容	発表者は事前に発表資料（動画やスライド等）を作成し、eALPSまたはMicrosoft Teamsにアップすること。受講生は事前に発表資料を用い予習を行うこと。また、授業後にeALPSまたはMicrosoft Teams上で発表に対する質疑応答を行う。						
履修上の注意	心理学・社会心理学コースの心理学研究室に所属する2年生は本演習を履修するようにすること。心理学研究室で卒業論文を書く予定の学生（3,4年生）の履修も歓迎する。なお、受講を希望する学生数によっては履修制限を行う場合がある。また、心理学実験で使用する機材について学ぶ機会を設ける。						
質問、相談への対応	火曜日の12:30から13:20をオフィスアワーとする。研究室の場所は人文学部棟5階。相談のある学生は、事前にメールにてアポを取ること。アドレスは、takaseh (at) shinshu-u.ac.jp						
教科書	使用しない。						
参考書	授業時に適宜紹介する。						

登録コード	L1541500	開講年度	2026				
担当教員	今井 章			副担当	松本 昇		
授業科目	心理実習 (心理実習)						
英文授業名	Practical Training in Psychology I						
授業タイトル	心理実習 (心理実習)						
単位数	1	対象学生		講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期
講義室			遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力				変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力が身につくようになる。		
	【2022年度以前加付対象】異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力				異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力が身につくようになる。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士(文学)の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】				人文学部人文学科の学士(文学)の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身につくようになる。		
	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】				専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身につくようになる。		
授業の概要	本実習では、司法・犯罪分野の施設としての松本少年刑務所、および福祉分野の施設としての長野県松本あさひ学園で、見学を中心とした実習を行う。それぞれの施設を実地に訪ね、実習指導者による講義を聴講し施設内を見学する。 なお、松本あさひ学園での実習には別途、2日間分の実習費(1日当たり3200円+昼食代)を各自で用意する必要がある。						
授業計画	第1週 ガイダンス 第2 - 14週 事前学習と事前指導、松本少年刑務所での実習(半日)、長野県松本あさひ学園での実習(2日)、事後学習(ふりかえり)と事後指導 第15週 まとめと授業アンケート 定期試験なし 実際の実習は主に夏期休業期間を利用して行う予定であるが、実習先の事情やその他の状況により実習日、予告した内容等を変更する場合がある。						
成績評価の方法	実習参加前の事前学習によるレポート(3割)、実習への参加によるレポート(5割)、実習参加後の事後学習によるレポート(2割)を総合して評価する。 なお、単位取得のためには、両施設での実習に参加する必要がある。						
成績評価の基準	事前学習によるレポート、実習への参加によるレポート、実習参加後の事後学習による3つのレポート全てが、卓越して当該施設の概要と実態を捉え、またその問題点とを整理できていれば「卓越している」、優れて当該施設の概要と実態を捉え、またその問題点とを整理できていれば「かなり上にある」、的確に当該施設の概要と実態を捉え、またその問題点とを整理できていれば「やや上にある」、基本的な当該施設の概要と実態を捉え、またその問題点とを整理できていれば「その水準にある」と評価される。						
事前事後学習の内容	事前学習として、各自が当該施設の沿革、役割、勤務内容等について調べ学習を行う(各施設につき6時間)。事後学習として実習で得た体験および新たな視点について、ふりかえりと体験の共有を行う(各施設6時間)。						
履修上の注意	心理学・社会心理学コースの4年生であり公認心理師の資格取得を目指す学生で、4年次までに受講すべき必要科目を履修し、単位を修得した学生にのみ受講を認める。						
質問、相談への対応	木曜日の12:30~13:30のオフィスアワーにて対応する。事前にメール(imaiakr@shinshu-u.ac.jp)にて予約をする。						
教科書	使用しない。事前、事後指導時に適宜、資料などを配付する。						
参考書	事前、事後指導時に適宜、紹介する。						

登録コード	L1541600	開講年度	2026				
担当教員	今井 章			副担当	松本 昇		
授業科目	心理実習 (心理実習)						
英文授業名	Practical Training in Psychology II						
授業タイトル	心理実習 (心理実習)						
単位数	1	対象学生		講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期
講義室			遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力				変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力が身につくようになる。		
	【2022年度以前加付対象】異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力				異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力が身につくようになる。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士(文学)の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】				人文学部人文学科の学士(文学)の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身につくようになる。		
	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】				専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身につくようになる。		
授業の概要	本実習では、教育分野の施設としての附属松本小学校、附属松本中学校で、見学を中心とした実習を行う。それぞれの施設を実地に訪ね、実習指導者による講義を聴講し施設内を見学する。						
授業計画	第1週 ガイダンス 第2 - 14週 事前学習と事前指導、附属松本小学校での実習(2日間)、附属松本中学校での実習(2日間)、事後学習(ふりかえり)と事後指導 第15週 まとめと授業アンケート 定期試験なし 実際の実習は主に夏期休業期間を利用して行う予定であるが、実習先の事情やその他の状況により実習日、予告した内容等を変更する場合がある。						
成績評価の方法	実習参加前の事前学習によるレポート(3割)、実習への参加によるレポート(5割)、実習参加後の事後学習によるレポート(2割)を総合して評価する。 なお、単位取得のためには、附属松本小学校、および、附属松本中学校での両方の実習に参加する必要がある。						
成績評価の基準	事前学習によるレポート、実習への参加によるレポート、実習参加後の事後学習による3つのレポート全てが、卓越して当該施設の概要と実態を捉え、またその問題点とを整理できていれば「卓越している」、優れて当該施設の概要と実態を捉え、またその問題点とを整理できていれば「かなり上にある」、的確に当該施設の概要と実態を捉え、またその問題点とを整理できていれば「やや上にある」、基本的な当該施設の概要と実態を捉え、またその問題点とを整理できていれば「その水準にある」と評価される。						
事前事後学習の内容	事前学習として、各自が当該施設の沿革、役割、勤務内容等について調べ学習を行う(各施設につき6時間)。事後学習として実習で得た体験および新たな視点について、ふりかえりと体験の共有を行う(各施設につき6時間)。						
履修上の注意	心理学・社会心理学コースの4年生であり公認心理師の資格取得を目指す学生で、4年次までに受講すべき必要科目を履修して、単位を修得した学生にのみ受講を認める。						
質問、相談への対応	木曜日の12:30~13:30のオフィスアワーにて対応する。事前にメール(imaiakr@shinshu-u.ac.jp)にて予約をする。						
教科書	使用しない。事前、事後指導時に適宜、資料などを配付する。						
参考書	事前、事後指導時に適宜、紹介する。						

登録コード	L1621100	開講年度	2026				
担当教員	岡本 卓也			副担当			
授業科目	社会心理学概論 【EA】(社会・集団・家族心理学)						
英文授業名	Social Psychology: Introduction						
授業タイトル	社会心理学概論 (社会・集団・家族心理学)						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	金曜・2時限
講義室			遠隔授業科目	該当	読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			社会心理学の研究知見に対する知識を獲得し、社会を分析・理解する際に役立つ基本知識や心理学的概念について理解することができるようになる。これにより、自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力が身につくようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士(文学)の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			身の回りのありふれた事柄や出来事について、社会心理学の研究知見に基づいて、科学的で独自の視点から考えることができるようになる。これにより、人文学部人文学科の学士(文学)の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身につくようになる。			
	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】			社会心理学の研究知見に対する知識を獲得し、自分自身の興味と関連付けて考えられるようになる。また、社会心理学の研究知見に基づいて、社会現象を理解できるようになる。これにより、専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身につくようになる。			
授業の概要	社会心理学概論Iでは、「社会的態度」、「対人関係」、「集団現象」、「家族関係」という4つのテーマを中心に解説する。具体的な事例を多く取り上げ説明していく予定ではあるが、その背後にある人間行動のメカニズムや、社会心理学の考え方を理解し、それらの知識を自分の普段の生活にも生かせるようになることを目指す。						
授業計画	第01回：社会心理学とは 第02回：社会的自己1--自己評価 第03回：社会的自己2--自己制御 第04回：社会的認知 第05回：社会的態度・態度変容 第06回：コミュニケーション 第07回：対人関係1--関係の構築 第08回：対人関係2--関係の崩壊 第09回：対人葛藤 第10回：援助行動 第11回：ソーシャルサポート 第12回：社会的影響 第13回：集団過程 第14回：集団間関係 第15回：家族心理学・授業アンケート なお、本講義は遠隔授業（オンデマンド授業）です。毎週月曜日に解説動画をeAlpsにアップします。また、金曜2時限目は質問専用のオンライン授業日とします。						
成績評価の方法	授業中に提出してもらうショートレポート（30％）および期末試験（70％）によって、社会心理学の基本的な概念や理論の理解度を評価する。						
成績評価の基準	ショートレポート、ミニテストおよび期末試験の評価については、 1.社会心理学の理論や知見を理解できているか 2.理論や知見に関連する学説がきちんと把握できているか 3.理論を正確に理解出来ているか 4.理論を理解し具体的な問題と関連づけられているか 5.理論を踏まえ、独自の視点で日常生活の事象を考察できるか 1から5までの5項目を満たしていれば「卓越している」、4項目なら「かなり上にある」、3項目なら「やや上にある」。2項目なら「その水準にある」とする。						
事前事後学習の内容	社会心理学の講義で取り扱うトピックは、ニュースやその他のメディアでも取り上げられるものが多い。日常的にそれらの情報に注意を向け、関連する事例については、詳細な情報を収集し、授業で得た知識や参考書を元に論考すること。						
履修上の注意	半年間の講義を通して体系的に学習することを目指すので、順番通りに定期的にオンデマンド動画を視聴すること。そのうえで積極的にZoomによる質疑応答時間を活用してほしい。また、受講生が講義内容について自らの問題として捉え、質問時間に積極的に質問をすることを求める。 本授業では生成系AI（ChatGPT等）の利用を禁止しない。ただし、「思考の代行」としてではなく、「						

履修上の注意	学習補助」としての利用に限定する。具体的には、文章の推敲、文献・事例の探索等に用いるにとどめ、自分の主張の核（問い、立場、論証）は必ず自分の頭をつかって構築すること。また、AIが提示した参考文献や知見には誤りが含まれる可能性がある。したがって、レポート等で論拠として挙げる文献については、AIの要約や二次情報のみに依拠せず、必ず原典（一次資料）を自分で入手して通読し、内容を理解した資料のみ引用・参照を認める。その上で、生成系AIを利用した場合は、利用箇所・用途を明記すること。以上（主張の中核を自ら構築すること、原典確認、利用箇所・用途の明記等）を満たさないまま提出したことが確認された場合、減点の対象、または不正行為として取り扱う場合がある。
質問、相談への対応	火曜の昼休みをオフィスアワーとするが、それ以外にも、メールで連絡をしてもらえれば、個別に対応する。連絡先については、初回の授業中に伝える。
教科書	特に指定しない。
参考書	北村英哉・内田由紀子(2016)．社会心理学概論，ナカニシヤ出版(978-4779510595，¥3780)． 池上知子・遠藤由美(2024)．グラフィック社会心理学 第3版，サイエンス社(978-4781916101，¥2970)．

登録コード	L1632100	開講年度	2026				
担当教員	岡本 卓也			副担当			
授業科目	社会心理学基幹演習						
英文授業名	Social Psychology: Basic Seminar						
授業タイトル	社会心理学基幹演習						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	木曜・2時限
講義室	人文501演習室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			身の回りのありふれた事柄や出来事について、心理学の研究知見に基づいて、科学的で独自の視点から考えることができるようになる。これにより、人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力(思索力・受容力・批判力)を身につけることができるようになる。			
	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】			心理学の研究知見に対する知識を獲得し、自分自身の興味と関連付けて考えられるようになる。また、心理学の研究知見に基づいて、論文を読解し、他者に正しく伝えることができるようになる。これにより、専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力(開拓力・企画発想力)を身につけることができるようになる。			
授業の概要	興味のある研究論文を各自で選び、それをレジュメの形にまとめ、発表し、興味深い点や問題点について全員で討論を行う。 初回の発表は日本語の論文を選択してもよいが、以降は基本的に英語論文を読み、発表する。						
授業計画	第1回：ガイダンス（授業の進め方と発表の割り当て） 第2回：発表と討論（1）社会心理学とは 第3回：発表と討論（2）社会的態度 第4回：発表と討論（3）対人関係 第5回：発表と討論（4）コミュニケーション 第6回：発表と討論（5）対人魅力 第7回：発表と討論（6）社会的影響 第8回：発表と討論（7）集団過程 第9回：発表と討論（8）集団内行動 第10回：発表と討論（9）集団間行動 第11回：発表と討論（10）ステレオタイプ、偏見 第12回：発表と討論（11）文化の影響 第13回：発表と討論（12）集合行動 第14回：発表と討論（13）国際行動 第15回：総評とまとめ、授業アンケート 定期試験なし 尚、各トピックについては受講生の関心や社会状況に合わせて変更する場合がある。						
成績評価の方法	発表の質（70％）と議論への積極的参加（30％）によって、社会心理学的研究についての理解度を評価する。						
成績評価の基準	・研究論文の問題を正確に理解している ・研究論文の方法を正確に理解している ・研究論文の結果を正確に理解している ・研究論文の考察を正確に理解している ・研究論文の論旨を正確に理解している ・研究論文の良し悪しについて評価し、議論できている ・適切な発表資料を作成している 以上の7項目すべてを満たし、かつ討論に積極的に参加していれば、「卓越している」、6項目を満たし、かつ討論に積極的に参加していれば、「かなり上にある」、4,5項目であり、かつ討論にやや積極的に参加していれば「やや上にある」、3項目であり、討論に参加していれば「その水準にある」と評価する。						
事前事後学習の内容	自身が興味のあるテーマを扱っている論文を見つけられるように論文検索を行う。また、他の受講生が発表する論文も、予め読み、活発な議論ができるように準備しておく。						
履修上の注意	社会心理学領域で卒業論文を書く2年生は必ず履修すること。社会心理学領域の3、4年生の履修も歓迎する。ただし、履修希望者多数の場合、2年生以外は抽選とする。						
質問、相談への対応	火曜の昼休みをオフィスアワーとするが、それ以外にもメールで連絡をしてもらえれば、個別に対応する。連絡先については、初回の授業中に伝える。						
教科書	各自が選んだ論文と、それに基づいて作成したレジュメが資料となるので、特定の教科書は指定しない。						
参考書	授業中に適宜紹介する。						

登録コード	L1632300		開講年度	2026			
担当教員	岡本 卓也			副担当			
授業科目	社会心理学特論						
英文授業名	Social Psychology: Advanced Lecture						
授業タイトル	社会心理学特論：旅の社会心理学						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	金曜・2時限
講義室	人文第4講義室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加わらぬ対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力				過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力が身に付くようになる		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加わらぬ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身に付いている。【思索力・受容力・批判力】				人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身に付くようになる		
授業の概要	【2023年度以降加わらぬ対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身に付いている。【開拓力・企画発想能力】				専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身に付くようになる		
	インバウンドや地域振興という文脈から観光に対する関心，期待が高まってきている。一方で，観光に関する教育や研究は，観光業種に就くための実践的なハウツー教育や，実学としての観光論，地域振興としての観光学が中心であった。また，観光行動に関する話題や解説はテレビや雑誌など身近なメディアにも多く掲載されている。しかし，それらの情報の多くは，耳目を集めるために話題性が高いだけの，科学的知見に基づかない表面的な議論であるのが実情である。本講義では，それらから一旦距離をおき，社会心理学や観光学などの科学的知見に基づき，旅をすることの心理過程についての議論を行う。これらの学習を通して旅行行動・旅行行動についての理解を深めてもらいたい。						
授業計画	第01回 オリエンテーション 第02回 日本における観光行動の実態 第03回 観光行動・旅行行動とはなにか 第04回 レジャーと観光 第05回 どう「おもてなし」するのか-接客とホスピタリティ 第06回 どんな場所がひとを惹きつけるのか-観光地のアフォーダンス 第07回 旅マエー観光行動における情報とイメージ 第08回 人はなぜ旅に出るのか-観光動機の構造と機能 第09回 旅ナカー観光行動と感情経験の意味 第10回 何を求めて旅をするのか-旅と巡礼 第11回 何を求めて旅をするのか-旅と山行 第12回 何を求めて旅をするのか-バックパッカー 第13回 地域資源としての道 第14回 旅アトー旅の思い出と原風景 第15回 まとめと授業アンケート なお，状況に応じて，予告した内容を変更する場合がある。						
成績評価の方法	講義中の発表内容と期末試験とを3：7の割合で総合的に評価する。						
成績評価の基準	・旅行行動についての実態について理解している ・旅行行動についての科学的調査法，分析法について理解している ・旅行行動についての心理過程について理解している ・旅行行動について理解した上で，観光や旅行について自分の考えを主張できる 以上の4項目を満たしていれば「かなり上にある」，3項目であれば「やや上にある」，2項目であれば「その水準にある」と評価する。						
事前事後学習の内容	毎週テーマを与えるので，各自がテーマに関連する「実証的な研究」を複数読み，論考してくること。またその内容を授業中に発表してもらう。						
履修上の注意	旅，観光という楽しく身近な話題ではあるが，実証科学に基づいた議論を展開する予定であるため，心理学，社会心理学，社会学など，実証科学，行動科学関連の概論科目を複数履修済であることが望ましい。本授業では生成系AI（ChatGPT等）の利用を禁止しない。ただし，「思考の代行」としてではなく，「学習補助」としての利用に限定する。具体的には，文章の推敲，文献・事例の探索等に用いるにとどめ，自分の主張の核（問い，立場，論証）は必ず自分の頭をつかって構築すること。また，AIが提示した参考文献や知見には誤りが含まれる可能性がある。したがって，レポート等で論拠として挙げる文献については，AIの要約や二次情報のみに依拠せず，必ず原典（一次資料）を自分で入手して通読し，内容を理解した資料のみ引用・参照を認める。その上で，生成系AIを利用した場合は，利用箇所・用途を明記すること。以上（主張の中核を自ら構築すること，原典確認，利用箇所・用途の明記等）を満たさないまま提出したことが確認された場合，減点の対象，または不正行為として取り扱う場合がある。						
質問、相談への対応	火曜の昼休みをオフィスアワーとするが、それ以外にも、メールで連絡をしてもらえれば、個別に対応する。連絡先については、初回の授業中に伝える。						

教科書	特には定めない
参考書	橋本俊也（編著）「観光行動論」 原書房 前田勇他（監修）「観光とサービスの心理学:観光行動学序説」 学文社 佐々木土師二 「観光旅行の心理学」 北大路書房 佐々木土師二・他 「観光の社会心理学—ひと、こと、もの 3つの視点から」 北大路書房

登録コード	L1632500		開講年度	2026			
担当教員	白井 真理子			副担当			
授業科目	教育・学校心理学						
英文授業名	Educational and School Psychology						
授業タイトル	教育・学校心理学						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	木曜・1時限
講義室	人文第4講義室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			学問としての教育心理学の観点から、教育現場における様々な事象を分析・理解する際に役立つ基本知識や心理学的概念について理解することができるようになる。また、教育現場における心理社会的課題と支援方法についての知識を獲得できるようになる。これにより、過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力を身につけることができるようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			学問としての教育心理学の観点から、教育現場における様々な事象を分析・理解する際に役立つ基本知識や心理学的概念について理解することができるようになる。これにより、人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力（思索力・受容力・批判力）を身につけることができるようになる。			
	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】			教育現場における心理社会的課題と支援方法についての知識を獲得できるようになる。これにより、専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力（開拓力・企画発想力）を身につけることができるようになる。			
授業の概要	本授業では、教育心理学と学校心理学を基盤とし、子どもの心理社会的課題への取り組みや学校生活での問題解決を支援する際に必要となる、教育心理学の基本知識を学ぶ。また、より応用的観点から、学校教育における心理教育的援助サービスの理論と実践について学ぶ。教育現場において生じる問題や背景について概説し、理解を深めるとともに、問題に対する心理学的基礎知識を学び、問題に対する支援・援助に必要な知識や態度を獲得することを目指す。						
授業計画	第01回 教育・学校心理学とは 第02回 学習 第03回 動機づけ 第04回 記憶 第05回 知能 第06回 教育方法 第07回 学級集団 第08回 教育評価 第09回 心理教育的アセスメント 第10回 心理教育的援助サービス 第11回 子供をめぐる課題への援助(1) 第12回 子供をめぐる課題への援助(2) 第13回 援助者をめぐる課題への援助 第14回 多職種連携による援助 第15回 まとめ・授業アンケート						
成績評価の方法	授業内でのリアクションペーパーに対する回答(30%)、期末試験(70%)で評価する。						
成績評価の基準	リアクションペーパーに対する回答および、授業で紹介した理論や用語を理解しているか、授業で紹介した内容を理解し、応用して問題を解くことができるかという観点から評価する。 リアクションペーパー、期末試験の回答の達成度が90%以上は、「卓越している」、80%以上が「かなり上にある」、70%以上は「やや上にある」、60%以上は「その水準にある」とする。						
事前事後学習の内容	参考文献に挙げたリストを参考に、該当するチャプターや関連書籍などを授業前に予め目を通しておく。事後学習としては、講義内容を配布資料から復習する。わからない点は次回までに明らかにしてくる。						
履修上の注意	本授業では、心理援助職を目指すうえで必要な教育心理学、学校心理学の基礎知識だけでなく、実践において実施されている取り組みについても学ぶ。自身で学んだ知識を講義内だけでなく、日常の中においても実践的な目で思索するように努めること。						
質問、相談への対応	質問については、メール(mshirai@shinshu-u.ac.jp)にて適宜対応する。						
教科書	特定のテキストは使用せず、講義内で資料を配布する。						
参考書	服部環・外山美樹(編)(2013) スタンダード教育心理学 サイエンス社 日本学校心理学会(編)(2016) 学校心理学 ハンドブック 第2版 教育出版 野島一彦・繁樹算男(監修)・石隈利紀(編)(2022) 第18巻 教育・学校心理学 第2版 (公認心理師の基						

登録コード	L1640400	開講年度	2026				
担当教員	松本 昇 他			副担当	今井 章		
授業科目	社会心理学発展演習 (心理実習)						
英文授業名	Social Psychology: Advanced Seminar						
授業タイトル	心理実習						
単位数	2	対象学生	公認心理師資格履修者	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期
講義室			遠隔授業科目			読替科目	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
授業の概要	本実習では、保健医療分野の施設として医学部附属病院で、見学を中心とした実習を行う。施設を実地に訪ね、実習指導者による講義を聴講し施設内を見学する。						
授業計画	第1週 ガイダンス 第2 - 14週 事前学習と事前指導、医学部附属病院での実習(数日)、事後学習(ふりかえり)と事後指導 第15週 まとめと授業アンケート 定期試験なし 実際の実習は夏期休業期間を利用して行う予定であるが、実習先の事情やその他の状況により実習期日、予告した内容等を変更する場合がある。						
成績評価の方法	実習参加前の事前学習によるレポート(3割)、実習への参加によるレポート(5割)、実習参加後の事後学習によるレポート(2割)を総合して評価する。 なお、単位取得のためには、医学部附属病院での実習にすべて参加する必要がある。						
成績評価の基準	事前学習によるレポート、実習への参加によるレポート、実習参加後の事後学習による3つのレポート全てが、卓越して当該施設の概要と実態を捉え、またその問題点とを整理できていれば「卓越している」、優れて当該施設の概要と実態を捉え、またその問題点とを整理できていれば「優れている」、的確に当該施設の概要と実態を捉え、またその問題点とを整理できていれば「やや優れている」、基本的な当該施設の概要と実態を捉え、またその問題点とを整理できていれば「その水準にある」と評価される。						
事前事後学習の内容	事前学習として、各自が当該施設の沿革、役割、勤務内容等について調べ学習を行う(6時間)。事後学習として実習で得た体験および新たな視点について、ふりかえりと体験の共有を行う(8時間)。						
履修上の注意	心理学・社会心理学コースの4年生であり公認心理師の資格取得を目指す学生で、4年次までに受講すべき必要科目を履修して単位を修得した学生にのみ受講を認める。						
質問、相談への対応	火曜日の12:20～13:20のオフィスアワーにて対応する。極力、事前にメール(noborum@shinshu-u.ac.jp)にて予約をする。						
教科書	使用しない。事前、事後指導時に適宜、資料などを配付する。						
参考書	事前、事後指導時に適宜紹介する。						

登録コード	L1641101	開講年度	2026				
担当教員	岡本 卓也			副担当			
授業科目	心理学特殊実験 (心理学実験)						
英文授業名	Psychology : Advanced Experiments I						
授業タイトル	心理学特殊実験 (心理学実験)						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	金曜・4時限 金曜・5時限
講義室	人文204演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力				身の回りのありふれた事柄や出来事について、社会心理学の研究知見に基づいて、科学的で独自の視点から考えることができるようになる。これにより、自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力が身に付くようになる		
	【2022年度以前加付対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力				心理学の研究知見に対する知識を獲得し、自分自身の興味と関連付けて考えられるようになる。これにより、過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力が身に付くようになる		
	【2022年度以前加付対象】情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー				社会心理学の研究知見に基づいて、論文を読解し、他者に正しく伝えることができるようになる。これにより、情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシーが身に付くようになる		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士(文学)の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】				身の回りのありふれた事柄や出来事について、社会心理学の研究知見に基づいて、科学的で独自の視点から考えることができるようになる。これにより、人文学部人文学科の学士(文学)の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身につくようになる		
	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】				社会心理学の研究知見に対する知識を獲得し、自分自身の興味と関連付けて考えられるようになる。また、心理学の研究知見に基づいて、論文を読解し、他者に正しく伝えることができるようになる。これにより、専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身につくようになる		
授業の概要	社会心理学における研究がいかに行われるか、その全体的な流れを学ぶ。授業の前半では様々なジャーナルに掲載された関連論文を読み、先行研究の知識を蓄える。その上で、自らの問題意識を整理し、リサーチ・クエスチョンとして表現し仮説にする。さらに、仮説を検証するためのデータ収集の方法を決定し、実験や調査のための手続きや質問紙を構成する。 このような一連の研究遂行をしていく中で、グループ・ディスカッションを行い、自らの問題のみに終始することなく、学んだことを全体の知としてフィードバックすることで、受講生相互に刺激を与え合う授業構成とする。						
授業計画	第1回：ガイダンス：社会心理学における研究とは 第2回：発表と討論(1) 第3回：発表と討論(2) 第4回：発表と討論(3) 第5回：発表と討論(4) 第6回：発表と討論(5) 第7回：発表と討論(6) 第8回：発表と討論(7) 第9回：仮説の設定(1)：自らの興味を整理し、リサーチ・クエスチョンとして表現する 第11回：仮説の設定(2)：リサーチ・クエスチョンに基づき、仮説を立てる 第12回：データ収集方法と具体的な実施手続きの決定 第13回：データ収集と解析の方法と具体的な実施手続きの決定 第14回：実験・調査の準備：実験手続きや質問紙の内容をまとめる 第15回：中間発表会・まとめ：ここまでの成果を発表する、授業アンケート 定期試験：なし						
成績評価の方法	授業への参加態度および論文発表の質(50%)と期末に課す中間発表(50%)により、社会心理学研究の実践方法の理解度を評価する。						
成績評価の基準	中間発表については、「問題」「目的」「方法」「結果」「考察」「引用文献」のそれぞれが明確に項目立てされており、各項目について以下のような内容が記述されていることが必要である。 1. 問題・目的で、当該研究で何を問題・目的とするのが明確である 2. 方法で、実験・調査の対象、手続き等の要点がもれなく説明されている 3. 分析が、当該研究の仮説を検証するにあたって的確である 4. 結果の予測が、実験・調査の内容に即して具体的に示されている 5. 引用文献が、所定の表記法(手引き参照)で記述されている 6. 発表全体が、自分の発見などを人に伝えるための適切な形式になっている						

成績評価の基準	以上の6項目すべてを満たし、かつ討論に積極的に参加していれば、「卓越している」、5項目を満たし、かつ討論に積極的に参加していれば、「かなり上にある」、4項目であり、かつ討論にやや積極的に参加していれば「やや上にある」、3項目であり、討論に参加していれば「その水準にある」と評価する。
事前事後学習の内容	自分が取り組む研究テーマについて、CiNiiやPsychINFOを用いて、広範に検索し、先行研究を見つける。その際、キーワードの設定の仕方を工夫するなどして、繰り返し検索し、自分の関心により近い論文を見つけることができるスキルを身につける。そのようにして見つけた論文を十分に読み、さらに、その論文に引用されている文献も芋づる式に読み、先行研究に関する知識を十分に蓄える。
履修上の注意	「心理学基礎実験Ⅰ・Ⅱ」及び「社会心理学基幹演習」を履修した者を対象とする。社会心理学分野で卒業論文を作成する者は、社会心理学分野のいずれかの教員によるこの授業を必ず受講すること。本授業では生成系AI（ChatGPT等）の利用を禁止しない。ただし、「思考の代行」としてではなく、「学習補助」としての利用に限定する。具体的には、文章の推敲、文献・事例の探索等に用いるにとどめ、自分の主張の核（問い、立場、論証）は必ず自分の頭をつかって構築すること。また、AIが提示した参考文献や知見には誤りが含まれる可能性がある。したがって、レポート等で論拠として挙げる文献については、AIの要約や二次情報のみに依拠せず、必ず原典（一次資料）を自分で入手して通読し、内容を理解した資料のみ引用・参照を認める。その上で、生成系AIを利用した場合は、利用箇所・用途を明記すること。以上（主張の中核を自ら構築すること、原典確認、利用箇所・用途の明記等）を満たさないまま提出したことが確認された場合、減点の対象、または不正行為として取り扱う場合がある。
質問、相談への対応	火曜の昼休みをオフィスアワーとするが、それ以外にもメールで事前連絡をしてもらえれば、個別に対応する。連絡先などについては、初回の授業中に伝える。
教科書	各自で、自らの研究テーマに沿った論文を収集し、関連する最新の文献を随時チェックすること。
参考書	授業中に適宜紹介する。

登録コード	L1641102	開講年度	2026				
担当教員	松本 昇			副担当			
授業科目	心理学特殊実験（心理学実験）						
英文授業名	Psychology : Advanced Experiments I						
授業タイトル	心理学特殊実験（心理学実験）						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	金曜・4時限 金曜・5時限
講義室	人文205 演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力が身につくようになる。			
	【2022年度以前加付対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力が身につくようになる。			
	【2022年度以前加付対象】情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー			情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシーが身につくようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身につくようになる。			
授業の概要	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】						
	認知臨床心理学における研究がいかにして行われるか、その全体的な流れを学ぶ。授業の前半では英語ジャーナルに掲載されたレビュー論文を読み、先行研究の知識を蓄える。その上で、自らの問題意識を整理し、リサーチ・クエスチョンとして表現し仮説にする。さらに、仮説を検証するためのデータ収集の方法を決定し、実験や調査のための手続きや質問紙を構成する。 このような一連の研究遂行をしていく中で、グループ・ディスカッションを行い、自らの問題のみに終始することなく、学んだことを全体の知としてフィードバックすることで、受講生相互に刺激を与え合う授業構成とする。						
授業計画	第1回：ガイダンス：心理学における研究とは 第2回：発表と討論(1) 第3回：発表と討論(2) 第4回：発表と討論(3) 第5回：発表と討論(4) 第6回：発表と討論(5) 第7回：発表と討論(6) 第8回：発表と討論(7) 第9回：発表と討論(8) 第9回：仮説の設定(1)：自らの興味を整理し、リサーチ・クエスチョンとして表現する 第11回：仮説の設定(2)：リサーチ・クエスチョンに基づき、仮説を立てる 第12回：データ収集方法と具体的な実施手続きの決定 第13回：データ収集と解析の方法と具体的な実施手続きの決定 第14回：実験・調査の準備：実験手続きや質問紙の内容をまとめる 第15回：中間発表会・まとめ：ここまでの成果を発表する、授業アンケート 定期試験：なし						
成績評価の方法	授業への参加態度および論文発表の質（50％）と期末に課す中間発表（50％）により、心理学研究の実践方法の理解度を評価する。						
成績評価の基準	中間発表については、「問題」「目的」「方法」「結果」「考察」「引用文献」のそれぞれが明確に項目立てされており、各項目について以下のような内容が記述されていることが必要である。 1.問題・目的で、当該研究で何を問題・目的とするのかが明確である 2.方法で、実験・調査の対象、材料、手続き等の要点がもれなく説明されている 3.分析が、当該研究の仮説を検証するにあたって的確である 4.結果の予測が、実験・調査の内容に即して具体的に示されている 5.引用文献が、所定の表記法（手引き参照）で記述されている 6.発表全体が、自分の発見などを人に伝えるための適切な形式になっている 1～6までの5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目であれば「やや上にある」、3項目であれば「その水準にある」と評価する。						
事前事後学習の内容	Trends in Cognitive SciencesやClinical Psychology Reviewといったレビュー論文誌を読み込む。さらに、Clinical Psychological Science、Journal of Abnormal Psychology（Journal of Psychopathology and Clinical Science）、Behaviour Research and Therapyなどの一流誌に掲載された研究論文を読み込む。それに限らず、自分が取り組む研究テーマについて、CiNiiやPsychINFOを用いて、広範に検索し、先行研究を見つける。その際、キーワードの設定の仕方を工夫するなどして、繰り返し検索し、自分の関心によ						

事前事後学習の内容	り近い論文を見つけることができるスキルを身につける。そのようにして見つけた論文を十分に読み、さらに、その論文に引用されている文献も芋づる式に読み、先行研究に関する知識を十分に蓄える。
履修上の注意	「心理学基礎実験」及び「心理学基幹演習」を履修した者を対象とする。心理学・社会心理学コースで卒業論文を作成する者は、心理学・社会心理学コースのいずれかの教員によるこの授業を必ず受講すること。
質問、相談への対応	火曜の昼休みをオフィスアワーとするが、それ以外にもメールで連絡をしてもらえれば、個別に対応する。連絡先などについては、初回の授業中に伝える。
教科書	各自、自らの研究テーマに沿った論文を収集し、関連する最新の文献を随時チェックすること。
参考書	授業中に適宜紹介する。

登録コード	L1641103	開講年度	2026				
担当教員	白井 真理子			副担当			
授業科目	心理学特殊実験 (心理学実験)						
英文授業名	Psychology : Advanced Experiments I						
授業タイトル	心理学特殊実験 (心理学実験)						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	水曜・1時限 水曜・2時限
講義室	人文206 演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
2022Lカリ, 2021Lカリ							
【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力				社会心理学、感情心理学の研究を自ら計画・実施し、論文を作成する準備を行うことができるようになる。自らの生活の中で見出した疑問を心理学的な問題として構成することにより、自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力を身につけることができるようになる。			
【2022年度以前加付対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力				社会心理学、感情心理学の研究を自ら計画・実施し、論文を作成する準備を行うことができるようになる。先行研究への理解を深めながら、自らの生活の中で見出した疑問を心理学的な問題として構成することにより、過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力を身につけることができるようになる。			
【2022年度以前加付対象】情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー				自らの生活の中で見出した疑問を心理学的な問題として構成し、その検証のために、実験や調査などの手法を用いてデータを収集・分析し、その結果を解釈し、論文としてまとめることができるようになる。これにより、情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシーを獲得できるようになる。			
2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ							
【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士(文学)の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】				社会心理学、感情心理学の研究を自ら計画・実施し、論文を作成する準備を行うことができるようになる。先行研究への理解を深めながら、自らの生活の中で見出した疑問を心理学的な問題として構成することにより、人文学部人文学科の学士(文学)の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力(思索力・受容力・批判力)を身につけることができるようになる。			
【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】				先行研究への理解を深めながら、自らの生活の中で見出した疑問を心理学的な問題として構成し、その検証のために、実験や調査などの手法を用いてデータを収集・分析し、その結果を解釈し、論文としてまとめていくことができるようになる。これにより、専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力(開拓力・企画発想能力)を身につけることができるようになる。			
授業の概要	社会心理学、特に感情の分野において研究がいかに行われるか、その全体的な流れを学ぶ。授業の前半では、先行研究を読み、自らの問題意識をリサーチ・クエスチョンとして表現し、仮説にする。さらに、仮説を検証するためのデータ収集の方法を決定し、実験や調査のためのシナリオや質問紙を構成する。このような一連の研究遂行をしていく中で、グループ・ディスカッションを行い、自らの問題のみに終始することなく、学んだことを全体の知としてフィードバックすることで、受講生相互に刺激を与えあう授業構成とする。						
授業計画	第01回：ガイダンス：社会心理学における研究とは 第02回：問題の発見(1)：自らの問題意識を整理し発表する 第03回：問題の発見(2)：グループ・ディスカッションによって問題を深める 第04回：先行研究の探索と研究テーマの選定(1)：先行研究の探索の仕方を学ぶ 第05回：先行研究の探索と研究テーマの選定(2)：先行研究と自身の問題との関連を探る 第06回：発表と討論(1)：カギとなる先行研究を発表する 第07回：発表と討論(2)：カギとなる先行研究を批判的に読み、自身の問題との関連を深める 第08回：仮説の設定(1)：問題をリサーチ・クエスチョンとして表現する 第09回：仮説の設定(2)：リサーチ・クエスチョンに基づき仮説を立て、グループ・ディスカッションにより確定する 第10回：データ収集方法と具体的な手続きの決定(1)：データの収集方法、具体的な手続き、解析の方法を考える 第11回：データ収集方法と具体的な手続きの決定(2)：データの収集方法、具体的な手続き、解析方法についてグループ・ディスカッションにより検討する 第12回：データ収集方法と具体的な手続きの決定(3)：グループ・ディスカッションをもとに、手続きを精練し、決定する 第13回：実験・調査の準備(1)：仮説検討に適した実験シナリオ・質問紙を作成する 第14回：実験・調査の準備(2)：実験・調査手続きの計画をまとめる 第15回：中間発表会・まとめ、授業評価アンケート						
成績評価の方法	授業の討論への積極的参加(50%)と中間発表(50%)により評価する。						
成績評価の基準	中間発表については、以下6項目の達成度から評価する。						

成績評価の基準	1. 問題(背景)、目的、仮説、方法、結果(想定)の5項目が記述されている 2. 問題と目的が明確に説明されている 3. 仮説が先行研究に基づき明確に設定されている 4. 方法において、対象者、手続き、分析方法が詳しく説明されている 5. 結果において、予想される結果が記述されている 6. 人にわかりやすく伝える発表になっている 6項目すべてを満たし、かつ討論に積極的に参加していれば、「卓越している」、5項目を満たし、かつ討論に積極的に参加していれば、「かなり上にある」、4項目であり、かつ討論にやや積極的に参加していれば「やや上にある」、3項目であり、討論に参加していれば「その水準にある」と評価する。
事前事後学習の内容	自身の研究関心・テーマに基づき、論文を検索し読み込むことで、先行研究や関心領域の知識を身につける必要がある。各自、自らの研究テーマに沿った論文を収集し、関連する最新の文献を随時チェックすること。
履修上の注意	「心理学基礎実験 ・ 」および「社会心理学基幹演習」もしくは「心理学基幹演習」を履修したものを対象とする。
質問、相談への対応	メール(mshirai@shinshu-u.ac.jp)で随時対応する。
教科書	特になし。
参考書	授業中に適宜紹介する。

登録コード	L1641201	開講年度	2026				
担当教員	岡本 卓也			副担当			
授業科目	心理学特殊実験						
英文授業名	Psychology : Advanced Experiments						
授業タイトル	心理学特殊実験						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	金曜・4時限 金曜・5時限
講義室	人文206 演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			身の回りのありふれた事柄や出来事について、社会心理学の研究知見に基づいて、科学的で独自の視点から考えることができるようになる。これにより、自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力が身に付くようになる			
	【2022年度以前加付対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			心理学の研究知見に対する知識を獲得し、自分自身の興味と関連付けて考えられるようになる。これにより、過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力が身に付くようになる			
	【2022年度以前加付対象】情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー			社会心理学の研究知見に基づいて、論文を読解し、他者に正しく伝えることができるようになる。これにより、情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシーが身に付くようになる			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			身の回りのありふれた事柄や出来事について、社会心理学の研究知見に基づいて、科学的で独自の視点から考えることができるようになる。これにより、人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身につくようになる			
授業の概要	「授業計画」に示した第7回までの段階は、ゼミ形式の全体指導を通して行う。 第8回以降の段階に関しては個別指導を受けながら各自で行うが、分析の結果や論文作成作業の進展状況等を逐次、ゼミで報告し、全体の知としてフィードバックする。						
授業計画	第1回：ガイダンス：社会心理学における研究について理解を深める 第2回：データ収集と解析の方法と具体的な実施手続きの決定：グループ・ディスカッションによって、データ収集と解析の方法を確定する 第3回：実験・調査の準備(1)：仮説検討に適した実験シナリオ・質問紙を構成する 第4回：実験・調査の準備(2)：グループ・ディスカッションによって、実験シナリオ・質問紙を確定する 第5回：実験・調査の準備(3)：予備実験・調査の実施とデータの統計解析をする 第6回：実験・調査の準備(4)：予備実験・調査結果を基に、実験シナリオ・質問紙を改善する 第7回：結果の分析と考察(1)：データ分析の概要を学ぶ 第8回：結果の分析と考察(2)：統計ソフトウェア（HAD）の操作方法を学ぶ 第9回：結果の分析と考察(3)：統計ソフトウェア（HAD）を用いて、データを分析する 第10回：結果の分析と考察(1)：仮説検証のための分析を行う（記述統計） 第11回：結果の分析と考察(2)：仮説検証のための分析を行う（t検定・分散分析等） 第12回：結果の分析と考察(3)：仮説検証のための分析を行う（重回帰分析・SEM等） 第13回：結果の分析と考察(4)：解析結果についての解釈を行う 第13回：研究成果のまとめと論文の作成(1)：研究成果をレポートとして纏める 第14回：研究成果のまとめと論文の作成(2)：レポートに対する講評に基づき、レポートを洗練させる 第15回：まとめ、講評、授業アンケート						
成績評価の方法	授業への積極的参加（50％）と論文の質（50％）により評価する。						
成績評価の基準	提出されたレポートについて、以下の1～6までの5項目を満たしていれば「卓越している」、4項目なら「かなり上にある」、3項目なら「やや上にある」。2項目なら「その水準にある」とする。 1.問題・目的で、当該論文で何を問題・目的とするのかが明確に記述されている 2.方法で、実験・調査の対象、材料、手続き等の要点がもれなく記述されている 3.結果が、実験・調査の結果について事実に即して忠実に記述されている 4.考察で、得られた結果が論理的に解釈され、結論に至るまでの過程が記述されている 5.引用文献が、所定の表記法（手引き参照）で記述されている 6.論文全体が、自分の発見などを人に伝えるための適切な形式になっている						
事前事後学習の内容	自分の研究関心に基づいて文献研究を行う。						

履修上の注意	「心理学基礎実験Ⅰ・Ⅱ」及び「社会心理学(基幹/発展)演習」を履修した者を対象とする。社会心理学分野で卒業論文を作成する者は、社会心理学分野のいずれかの教員によるこの授業を必ず受講すること。 本授業では生成系AI（ChatGPT等）の利用を禁止しない。ただし、「思考の代行」としてではなく、「学習補助」としての利用に限定する。具体的には、文章の推敲、文献・事例の探索等に用いるにとどめ、自分の主張の核（問い、立場、論証）は必ず自分の頭をつかって構築すること。また、AIが提示した参考文献や知見には誤りが含まれる可能性がある。したがって、レポート等で論拠として挙げる文献については、AIの要約や二次情報のみに依拠せず、必ず原典（一次資料）を自分で入手して通読し、内容を理解した資料のみ引用・参照を認める。その上で、生成系AIを利用した場合は、利用箇所・用途を明記すること。以上（主張の中核を自ら構築すること、原典確認、利用箇所・用途の明記等）を満たさないまま提出したことが確認された場合、減点の対象、または不正行為として取り扱う場合がある。
質問、相談への対応	火曜の昼休みをオフィスアワーとするが、それ以外にも、メールで連絡をしてもらえれば個別に対応する。連絡先については、初回の授業中に伝える。
教科書	各自、自らの研究テーマに沿った論文を収集し、関連する最新の文献を随時チェックすること。
参考書	授業中に適宜紹介する。

登録コード	L1641202	開講年度	2026				
担当教員	松本 昇			副担当			
授業科目	心理学特殊実験						
英文授業名	Psychology : Advanced Experiments						
授業タイトル	心理学特殊実験						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	金曜・4時限 金曜・5時限
講義室	人文205 演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加わった対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力が身につくようになる。			
	【2022年度以前加わった対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力が身につくようになる。			
	【2022年度以前加わった対象】情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー			情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシーが身につくようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加わった対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門の学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門の学力が身につくようになる。			
	【2023年度以降加わった対象】専門の学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】			専門の学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身につくようになる。			
授業の概要	認知臨床心理学における研究がいかにして行われるか、その全体的な流れを学びながら、自らの問題意識を整理し、リサーチ・クエスチョンとして表現し仮説にする。さらに、仮説を検証するためのデータ収集の方法を決定し、実験や調査のための手続きや質問紙を構成する。論文執筆にあたっての知識を蓄えるために、データ収集や分析と並行して、自身のテーマに関連する英語論文を読み、要点をまとめて発表する。 このような一連の研究遂行をしていく中で、グループ・ディスカッションを行い、自らの問題のみに終始することなく、学んだことを全体の知としてフィードバックすることで、受講生相互に刺激を与え合う授業構成とする。						
授業計画	1. ガイダンス：実験・調査実施、分析、論文作成という一連の流れを学ぶ 2. 実験・質問紙の確認(1)：実験・質問紙について発表し、確認する 3. 実験・質問紙の確認(2)：グループ・ディスカッションによって、実験・質問紙を確定する 4. 実験・調査の実施(1)：実験・質問紙の準備をする 5. 実験・調査の実施(2)：実験・調査を実施し、データを収集する 6. 実験・調査の実施(3)：引き続き、実験・調査を実施し、データを収集する 7. 実験・調査の実施(4)：収集されたデータを基に、データセットを作成する 8. 結果の分析と考察(1)：データ分析の概要を学ぶ 9. 結果の分析と考察(2)：統計ソフトウェア（HAD、JASP、R）の操作方法を学ぶ 10. 結果の分析と考察(3)：統計ソフトウェア（HAD、JASP、R）を用いて、データを分析する 11. 結果の分析と考察(4)：仮説検証のための分析を行う 12. 結果の分析と考察(5)：分析結果を解釈する 13. 研究成果のまとめと論文の作成：研究成果をレポートとしてまとめ、それに対する講評に基づいて修正する 14. 研究成果の発表 15. まとめ、授業アンケート 定期試験なし						
成績評価の方法	出席および授業への積極的参加（50％）と論文の質（50％）により、心理学研究の実践方法の理解度を評価する。						
成績評価の基準	論文については、「問題」「目的」「方法」「結果」「考察」「引用文献」のそれぞれが明確に項目立てされており、各項目について以下のような内容が記述されていることが必要である。 1. 問題・目的で、当該論文で何を問題・目的とするのかが明確に記述されている 2. 方法で、実験・調査の対象、材料、手続き等の要点がもれなく記述されている 3. 結果が、実験・調査の結果について事実即して忠実に記述されている 4. 考察で、得られた結果が論理的に解釈され、結論に至るまでの過程が記述されている 5. 引用文献が、所定の表記法（手引き参照）で記述されている 6. 論文全体が、自分の発見などを人に伝えるための適切な形式になっている 1～6までの5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目であれば「やや上にある」、3項目であれば「その水準にある」と評価する。						
事前事後学習の内容	自分が取り組む研究テーマについて、CiNiiやPsychINFO等を用いて、広範に検索し、先行研究を見つける。その際、キーワードの設定の仕方を工夫するなどして、繰り返し検索し、自分の関心により近い論文を見つけることができるスキルを身につける。						

事前事後学習の内容	そのようにして見つけた論文を十分に読み、さらに、その論文に引用されている文献も芋づる式に読み、先行研究に関する知識を十分に蓄える。 実験や調査は、実施日を考慮し、早めに準備をする。 最終レポート執筆の際には、図表や引用文献の整理など、案外時間がかかる作業があることを考慮し、早めに執筆に取りかかる。
履修上の注意	「心理学基礎実験」、「心理学基幹演習」、「心理学特殊実験」を履修した者を対象とする。心理学・社会心理学コースで卒業論文を作成する者は、心理学・社会心理学コースのいずれかの教員によるこの授業を必ず受講すること。 この授業の多くはオンライン形式で行われる。
質問、相談への対応	火曜の昼休みをオフィスアワーとするが、それ以外にもメールで連絡をしてもらえれば、個別に対応する。連絡先などについては、初回の授業中に伝える。
教科書	各自、自らの研究テーマに沿った論文を収集し、関連する最新の文献を随時チェックすること。
参考書	授業中に適宜紹介する。

登録コード	L1641203	開講年度	2026				
担当教員	白井 真理子			副担当			
授業科目	心理学特殊実験						
英文授業名	Psychology : Advanced Experiments						
授業タイトル	心理学特殊実験						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	水曜・1時限 水曜・2時限
講義室	人文201演習室	遠隔授業科目			読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			社会心理学、感情心理学の研究を自ら計画・実施し、論文を作成する準備を行うことができるようになる。自らの生活の中で見出した疑問を心理学的な問題として構成することにより、自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力を身につけることができるようになる。			
	【2022年度以前加付対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			社会心理学、感情心理学の研究を自ら計画・実施し、論文を作成する準備を行うことができるようになる。先行研究への理解を深めながら、自らの生活の中で見出した疑問を心理学的な問題として構成することにより、過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力を身につけることができるようになる。			
	【2022年度以前加付対象】情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー			自らの生活の中で見出した疑問を心理学的な問題として構成し、その検証のために、実験や調査などの手法を用いてデータを収集・分析し、その結果を解釈し、論文としてまとめることができるようになる。これにより、情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシーを獲得できるようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			社会心理学、感情心理学の研究を自ら計画・実施し、論文を作成する準備を行うことができるようになる。先行研究への理解を深めながら、自らの生活の中で見出した疑問を心理学的な問題として構成することができるようになる。これにより、人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力（思索力・受容力・批判力）を身につけることができるようになる。			
授業の概要	社会心理学、特に感情の分野において研究がいかに行われるか、その全体的な流れを学ぶ。自らの問題意識をリサーチ・クエスチョンとして表現し、仮説にする。その後、仮説を検証するためのデータ収集の方法を決定し、実験や調査のためのシナリオや質問紙を構成し、実際にデータを収集する。実験や調査実施と並行しながら、より良い論文を執筆するために自身のテーマと関連する論文を読み込む。最終的に、取得したデータを基に論文としてまとめる。						
	このような一連の研究遂行をしていく中で、グループ・ディスカッションを行い、自らの問題のみに終始することなく、学んだことを全体の知としてフィードバックすることで、受講生相互に刺激を与えあう授業構成とする。						
授業計画	第01回：ガイダンス：データ取得から論文作成までの一連の流れについて 第02回：実験・調査計画の確認：実験・調査計画について発表する 第03回：実験・調査計画の精練：グループ・ディスカッションによって、実験・調査計画を精練する 第04回：実験・調査の実施準備：実験・調査の実施準備 第05回：実験・調査の実施(1)：実験・調査を実施し、データを収集する 第06回：実験・調査の実施(2)：引き続き実験・調査を実施し、データを収集する 第07回：実験・調査の実施(3)：実験・調査を実施し、データを整理する 第08回：データ分析(1)：取得したデータを分析する 第09回：データ分析(2)：引き続き取得したデータを分析する 第10回：データ分析(3)：分析の結果を発表し、グループ・ディスカッションにより解釈を深める 第11回：データの考察(1)：得られた結果を解釈する 第12回：データの考察(2)：得られた結果を先行研究との関連を考えながら解釈する 第13回：論文の作成(1)：研究結果を論文の形にまとめる 第14回：論文の作成(2)：研究結果を論文の形にまとめながら、その内容を全体に発表する 第15回：まとめ、授業評価アンケート						
成績評価の方法	授業の討論への積極的参加(50%)と論文の質(50%)により評価する。						
成績評価の基準	論文については、序論、目的、方法、結果、考察、引用文献の6項目が含まれており、読み手に分かりやすく記述されていることが必要である。 各項目については、以下6項目の達成度から評価する。						

成績評価の基準	1. 序論において、研究の目的が明確に記述されている 2. 仮説が先行研究に基づき記述されている 3. 方法において、対象者、手続き、分析方法が実施した通り正確に記述されている 4. 結果において、得られた結果が正しく記述されている 5. 考察において、得られた結果に対して論理的な解釈がなされている 6. 引用文献において、所定の書式通りに記述されている 6項目すべてを満たし、かつ討論に積極的に参加していれば、「卓越している」、5項目を満たし、かつ討論に積極的に参加していれば、「かなり上にある」、4項目であり、かつ討論にやや積極的に参加していれば「やや上にある」、3項目であり、討論に参加していれば「その水準にある」と評価する。
事前事後学習の内容	自身の研究関心・テーマに基づき、論文を検索し読み込むことで、先行研究や関心領域の知識を身につける必要がある。各自、自らの研究テーマに沿った論文を収集し、関連する最新の文献を随時チェックすること。
履修上の注意	「心理学基礎実験 ・ 」、「社会心理学基幹演習」か「心理学基幹演習」、「心理学特殊実験 」を履修したものを対象とする。
質問、相談への対応	メール(mshirai@shinshu-u.ac.jp)で随時対応する。
教科書	特になし。
参考書	授業中に適宜紹介する。

登録コード	L1641400	開講年度	2026				
担当教員	白井 真理子			副担当			
授業科目	社会心理学発展演習						
英文授業名	Social Psychology: Advanced Seminar						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	木曜・2時限
講義室	人文202演習室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			身の回りのありふれた事柄や出来事について、心理学の研究知見に基づいて、科学的で独自な視点から考えることができるようになる。これにより、自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力を身につけることができるようになる。			
	【2022年度以前加付対象】他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー			心理学の研究知見に対する知識を獲得し、自分自身の興味と関連付けて考えられるようになる。また、心理学の研究知見に基づいて、論文を読解し、他者に正しく伝えることができるようになる。これにより、他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシーを身につけることができるようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			身の回りのありふれた事柄や出来事について、心理学の研究知見に基づいて、科学的で独自な視点から考えることができるようになる。これにより、人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力(思索力・受容力・批判力)を身につけることができるようになる。			
	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】			心理学の研究知見に対する知識を獲得し、自分自身の興味と関連付けて考えられるようになる。また、心理学の研究知見に基づいて、論文を読解し、他者に正しく伝えることができるようになる。これにより、専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力(開拓力・企画発想力)を身につけることができるようになる。			
授業の概要	興味のある研究論文を各自で選び、それをレジュメの形にまとめ、発表し、興味深い点や問題点について全員で討論を行う。 基本的にここ10年以内に出版された、査読付きの英語論文を扱うこととする。						
授業計画	第1回：ガイダンス：授業の進め方と発表の割り当て 第2回：発表と討論(1) 第3回：発表と討論(2) 第4回：発表と討論(3) 第5回：発表と討論(4) 第6回：発表と討論(5) 第7回：発表と討論(6) 第8回：発表と討論(7) 第9回：発表と討論(8) 第10回：発表と討論(9) 第11回：発表と討論(10) 第12回：発表と討論(11) 第13回：発表と討論(12) 第14回：発表と討論(13) 第15回：総評とまとめ、授業評価アンケート 定期試験：なし						
成績評価の方法	発表の質（50％）と議論への積極的参加（50％）によって、社会心理学的研究についての理解度を評価する。						
成績評価の基準	発表については、以下6項目の達成度から評価する。 1．適切な発表資料を作成している 2．研究論文の目的を正確に理解している 3．研究論文の方法を正確に理解している 4．研究論文の考察を正確に理解している 5．研究論文の論旨を正確に理解している 6．研究論文の内容を批判的に読むことができる 1-6において5項目以上を満たし、かつ討論に積極的に参加していれば、「かなり上にある」、4項目であり、かつ討論にやや積極的に参加していれば「やや上にある」、3項目であり、討論に参加していれば「その水準にある」と評価する。						
事前事後学習の内容	自身が興味のあるテーマを扱っている論文を見つけられるように論文検索を行う。また、他の受講生が発						

事前事後学習の内容	表する論文も、予め読み、活発な議論ができるように準備しておく。
履修上の注意	社会心理学分野の3年生を優先的な履修対象とする。社会心理学分野の2,4年生の履修も歓迎する。ただし、履修希望者多数の場合、3年生以外は抽選とする。
質問、相談への対応	火曜日の昼休みをオフィスアワーとするが、それ以外にもメール(mshirai@shinshu-u.ac.jp)で連絡をしてもらえれば、個別に対応する。
教科書	各自が選んだ論文と、それに基づいて作成したレジュメが資料となるので、特定の教科書は指定しない。
参考書	授業中に適宜紹介する。

登録コード	L1641500	開講年度	2026				
担当教員	松本 昇 他			副担当	今井 章		
授業科目	心理実習（心理実習）						
英文授業名	Practical Training in Psychology III						
授業タイトル	心理実習III						
単位数	1	対象学生	公認心理師資格履修者	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期
講義室	遠隔授業科目			読替科目			
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力				変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力が身につくようになる。		
	【2022年度以前加付対象】異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力				異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力が身につくようになる。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】				人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身につくようになる。		
授業の概要	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】						
	本実習では、保健医療分野の施設として医学部附属病院で、見学を中心とした実習を行う。施設を実地に訪ね、実習指導者による講義を聴講し施設内を見学する。						
授業計画	第1週 ガイダンス 第2 - 14週 事前学習と事前指導, 医学部附属病院での実習(数日), 事後学習(ふりかえり)と事後指導 第15週 まとめと授業アンケート 定期試験なし 実際の実習は夏期休業期間を利用して行う予定であるが、実習先の事情やその他の状況により実習期日、予告した内容等を変更する場合がある。						
成績評価の方法	実習参加前の事前学習によるレポート(3割), 実習への参加によるレポート(5割), 実習参加後の事後学習によるレポート(2割)を総合して評価する。 なお、単位取得のためには、医学部附属病院での実習にすべて参加する必要がある。						
成績評価の基準	事前学習によるレポート, 実習への参加によるレポート, 実習参加後の事後学習による3つのレポート全てが、卓越して当該施設の概要と実態を捉え、またその問題点とを整理できていれば「卓越している」、優れて当該施設の概要と実態を捉え、またその問題点とを整理できていれば「優れている」、的確に当該施設の概要と実態を捉え、またその問題点とを整理できていれば「やや優れている」、基本的な当該施設の概要と実態を捉え、またその問題点とを整理できていれば「その水準にある」と評価される。						
事前事後学習の内容	事前学習として、各自が当該施設の沿革、役割、勤務内容等について調べ学習を行う(6時間)。事後学習として実習で得た体験および新たな視点について、ふりかえりと体験の共有を行う(8時間)。						
履修上の注意	心理学・社会心理学コースの4年生であり公認心理師の資格取得を目指す学生で、4年次までに受講すべき必要科目を履修して単位を修得した学生にのみ受講を認める。						
質問、相談への対応	火曜日の12:20~13:20のオフィスアワーにて対応する。極力、事前にメール(noborum@shinshu-u.ac.jp)にて予約をする。						
教科書	使用しない。事前、事後指導時に適宜、資料などを配付する。						
参考書	事前、事後指導時に適宜紹介する。						

登録コード	L1641600	開講年度	2026	
担当教員	松本 昇	副担当		
授業科目	心理演習			
英文授業名	Seminar in Psychology			
授業タイトル	心理演習			
単位数	1	対象学生		講義期間
講義室	人文205 演習室	遠隔授業科目		前期
				曜日・時限
				木曜・4時限
信大コンピテンシー	非該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】
	2022Lカリ, 2021Lカリ			
	【2022年度以前加付対象】異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力			異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力が身につくようになる。
	【2022年度以前加付対象】領域横断的な事柄に対する問題解決能力および創造的な企画構想能力			領域横断的な事柄に対する問題解決能力および創造的な企画構想能力が身につくようになる。
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ			
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身につくようになる。
	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】			専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身につくようになる。
授業の概要	公認心理師に必要である心理療法の技術とアセスメントの技法を学ぶ。第2回から第9回では講義と実践を通じて心理療法の技術を学ぶ。第10回以降では、アセスメントの知識を学び、それをクライアントに実践する手法について講義と演習を通じて学びを深める。			
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 クライアント中心療法概説 第3回 クライアント中心療法実践 第4回 焦点の維持とフィードバック 第5回 動機づけ面接概説 第6回 動機づけ面接実践 第7回 認知行動療法概説 第8回 認知行動療法実践：認知再構成、機能分析 第9回 認知行動療法実践：エクスポージャー 第10回 精神科診断 第11回 精神科診断（2） 第12回 精神科診断（3） 第13回 精神科診断演習 第14回 臨床心理アセスメント演習 第15回 総括、授業アンケート 定期試験			
成績評価の方法	授業への参加態度（50％）と期末試験（50％）の成績によって評価する。			
成績評価の基準	・授業で示された例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」 ・応用問題が解ければ「やや上にある」 ・やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」 ・授業で示されなかった専門的知識を自ら学んで問題回答に活用できれば「卓越している」			
事前事後学習の内容	授業時間の大部分は、観察技術の練習に充てられる。授業中に配布される資料や参考文献を使って授業内容を十分に復習してから次回授業に臨むことを推奨する。			
履修上の注意	・授業で紹介される心理検査や事例を授業外で漏らさないこと。 ・複人数で行うワークを多く取り入れるので、積極的に参加すること。			
質問、相談への対応	火曜日の昼休みをオフィスアワーとする。これ以外にも、事前にアポイントをとれば対応可能である。研究室の場所やメールアドレスは授業内で伝える。			
教科書	指定しない			
参考書	American Psychiatric Association (2014). DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引 医学書院 ポール・L・ワクテル（著）杉原保史（訳）心理療法の言葉の技術 金剛出版			

登録コード	L1533000	開講年度	2024				
担当教員	今井 章			副担当			
授業科目	学習・言語心理学						
英文授業名	Psychology of Learning and Linguistics						
授業タイトル	学習・言語心理学						
単位数	1	対象学生	2～4	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・4時限
講義室	人文第1講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2024カリ						
	【2023年度以降加わった対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身につくようになる。			
	【2023年度以降加わった対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】			専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身につくようになる。			
授業の概要	前半部では学習心理学について、後半部では言語心理学について概説する。学習と言語は、人間の認知機能の中核をなしていることから、まず、人の認知機能における学習と言語の役割について概説する。その後、学習心理学領域について研究法、学習の型、行動の生得性と習得性、強化の役割、技能学習などについて概観する。さらに、言語心理学領域について研究法、言語の習得、コミュニケーション、知識、言語理解と産出、推論、思考や文化などの側面について解説する。						
授業計画	第1週 ガイダンス 第2週 人間の認知機能における学習と言語 第3週 学習心理学における研究の特質 第4週 学習の型 第5週 行動における生得性と習得性 第6週 学習における強化の役割 第7週 技能学習 第8週 言語心理学における研究の特質 第9週 言語の習得 第10週 言語とコミュニケーション 第11週 言語の使用と知識 第12週 言語理解と産出 第13週 言語と推論 第14週 言語と思考、文化 第15週 まとめと授業アンケート実施 定期試験なし なお、状況に応じて予告した内容を変更することがある。						
成績評価の方法	講義期間中には、リアクションペーパーの提出と随時、小テストを行う。この成績と期末に課されるレポートの成績を1：1で総合的に評価する。						
成績評価の基準	授業におけるリアクションペーパーや小テストの成績を5割、期末レポートの成績を5割とし、総合的に9割の成績に達した場合は『卓越している』、8割に達した場合は、『かなり上にある』、7割に達した場合は『やや上にある』、6割に達した場合は『その水準にある』と評価する。						
事前事後学習の内容	授業で紹介される参考書の中から、講義で述べられる予定のテーマについての事前学習(30分)を行って授業に臨む。講義で解説されて学んだことに基づく、リアクションペーパーに対する取り組みと、小テストで問われた問題を事後学習(1時間)とする。						
履修上の注意	心理学概論・、またはそれに相当する授業科目を履修していることを前提に講義を進める。教科書は特に指定しないが、講義第1週目に紹介する参考書の中から、最低1冊の専門書を講義の終了時まで読了すること。各自が読了した専門書について、それぞれに期末レポート課題を別途、仕上げる。						
質問、相談への対応	火、水曜日の12:30～13:00のオフィスアワーにて対応する。事前にメール(imaiakr@shinshu-u.ac.jp)にて予約をする。						
教科書	使用しない。授業時に適宜、資料などを配付する。						
参考書	授業時に適宜、紹介する。						